

15

キーボード入力

この章では、GP-Pro EX の「キーボード入力」についての基本的な説明と、キーボードを配置するための基本操作について説明します。

まず「15.1 設定メニュー」(15-2 ページ)をお読みいただき、目的に合ったキーボードの説明ページへ読み進んでください。

15.1	設定メニュー.....	15-2
15.2	ポップアップキーボードを表示したい.....	15-4
15.3	キーボードを画面上に常に表示したい.....	15-8
15.4	キーボードを使いやすく編集したい.....	15-11
15.5	日本語変換入力したい.....	15-22
15.6	データ表示器のシステムキーボードをカスタマイズしたい.....	15-30
15.7	設定ガイド.....	15-39
15.8	制限事項.....	15-55

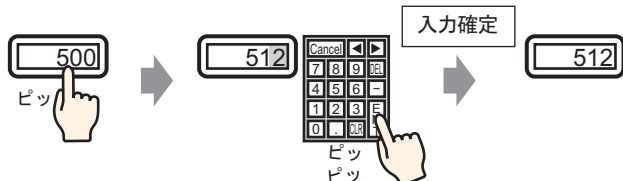
15.1 設定メニュー

ポップアップキーボードを表示したい

必要なとき（データ入力時）だけキーボードを画面上に表示します。

タッチすると…

ポップアップキーボードが出て数値を変更

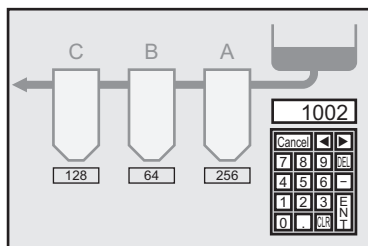


☞ 設定手順（15-5 ページ）

☞ 詳細（15-4 ページ）

キーボードを画面上に常に表示したい

画面に直接キーボードを配置します。キーボードは常に表示された状態になります。

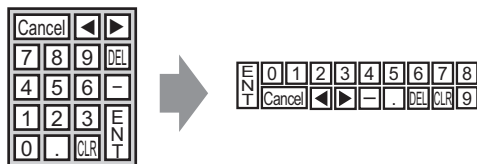


☞ 設定手順（15-9 ページ）

☞ 詳細（15-8 ページ）

キーボードを使いやすく編集したい

既存のキーボードを並び替え、自由にオリジナルキーボードを作成します。



☞ 設定手順（15-12 ページ）

☞ 詳細（15-11 ページ）

日本語変換入力したい

日本語入力の際、かな / 漢字変換することができます。



☞ 設定手順（15-23 ページ）

☞ 詳細（15-22 ページ）

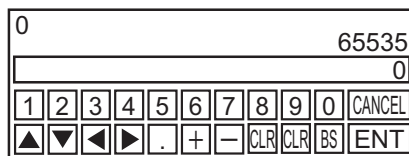
データ表示器のシステムキーボードをカスタマイズしたい

ユーザーキーボードにデータ表示器の制限値と入力中の数値を表示できるエリアを追加します。

システムキーボード



ユーザーキーボード
+ 入力中表示 + 制限値表示



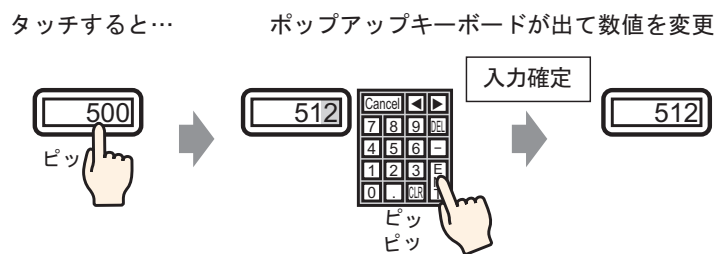
☞ 設定手順 (15-31 ページ)

☞ 詳細 (15-30 ページ)

15.2 ポップアップキーボードを表示したい

15.2.1 詳細

必要なとき（データ入力時）だけキーボードを画面上に表示します。

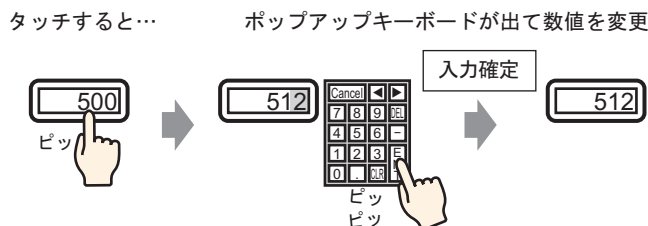


15.2.2 設定手順

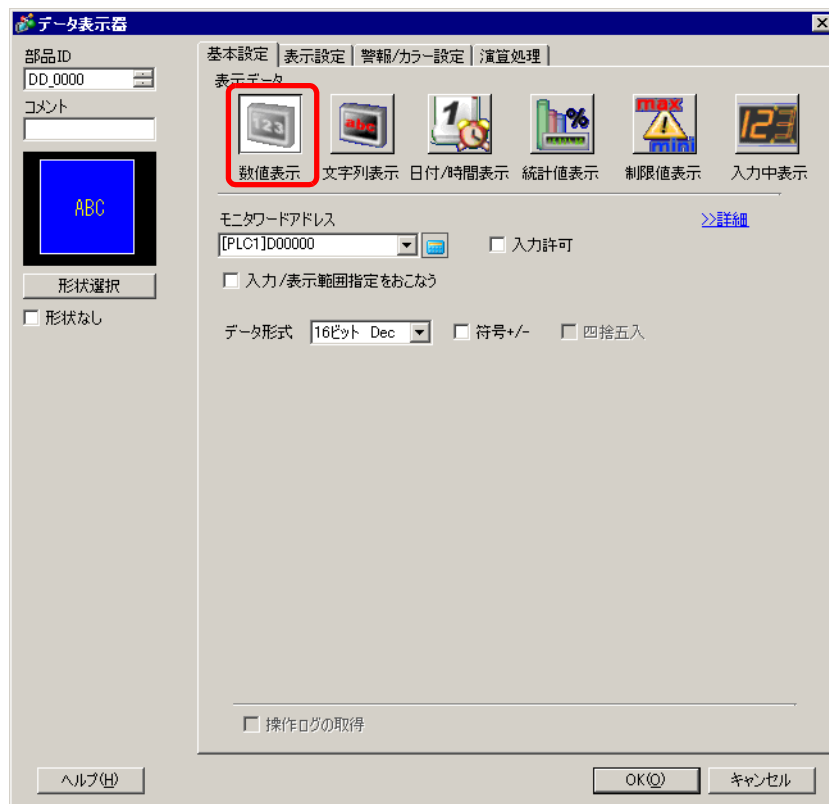
MEMO

- ・ 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。
 ☞「14.11 データ表示器の設定ガイド」(14-41 ページ)
- ・ 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。
 ☞「8.6.1 部品の編集手順」(8-42 ページ)

必要なとき(データ入力時)だけキーボードを画面上に表示します。



- 1 [部品(P)]メニューの[データ表示器(D)]から[数値表示(N)]を選択するか、をクリックし、画面に配置します。
- 2 配置したデータ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



3 [形状選択] でデータ表示器の形状を選択します。

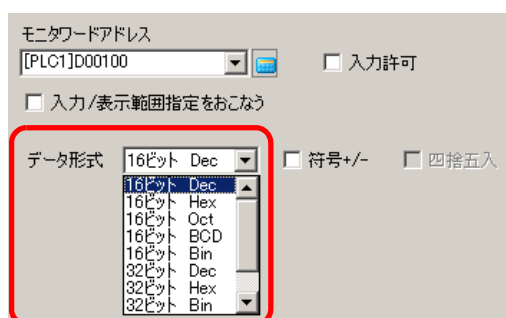
4 [モニタワードアドレス] に、数値入力した値が格納されるアドレス（例：D100）を設定します。

アイコンをクリックすると、
アドレス入力用キーボード
が表示されます。

デバイス「D」を選択し、ア
ドレスに「100」を入力して
「Ent」キーを押します。



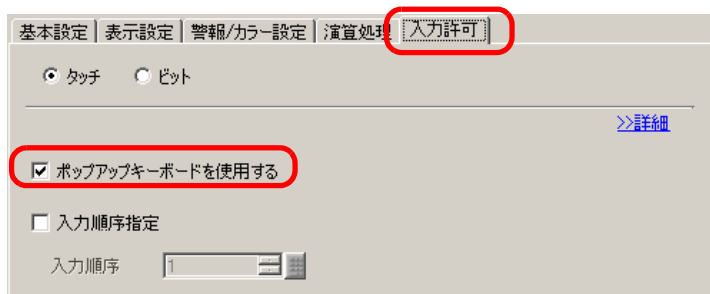
5 [データ形式] で表示するデータの形式（例：16 ビット Dec）を設定します。



6 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され数値データが入力できます。



- 7 [入力許可] タブをクリックすると、次のような画面が表示されるので [ポップアップキーボードを使用する] にチェックが入っていることを確認します。

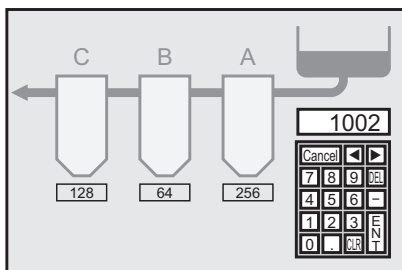


- 8 必要に応じて [警報 / カラー設定] タブ、[表示設定] タブで、データ表示器の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

15.3 キーボードを画面上に常に表示したい

15.3.1 詳細

画面に直接キーボードを配置します。キーボードは常に表示された状態になります。



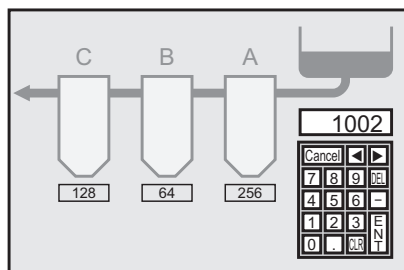
15.3.2 設定手順

MEMO

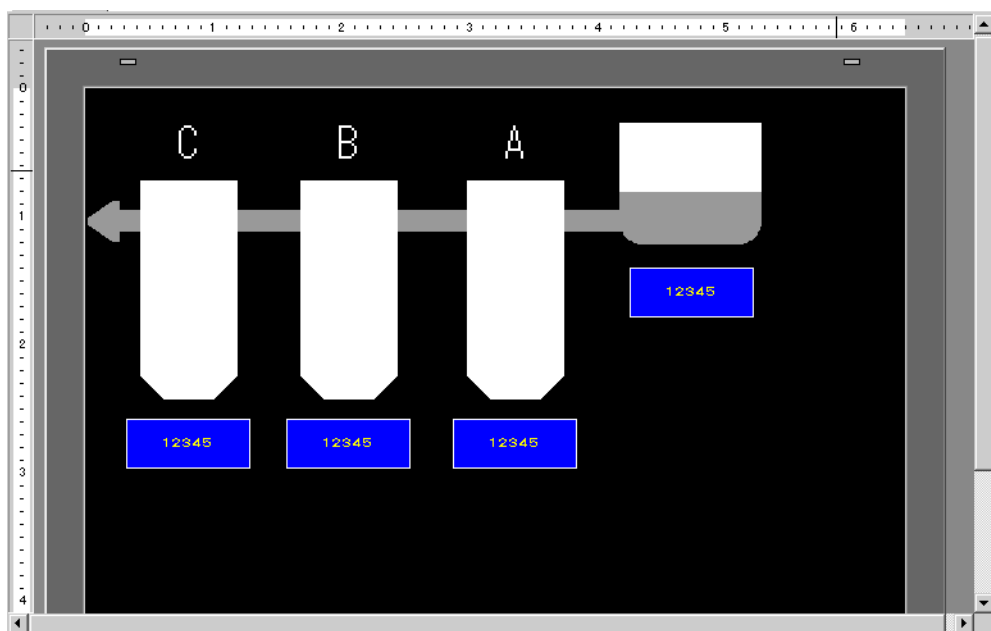
- ・ 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「15.7.1 キーボードの設定ガイド ■ ユーザーキーボード」(15-41 ページ)

画面に直接キーボードを配置します。キーボードは常に表示された状態になります。



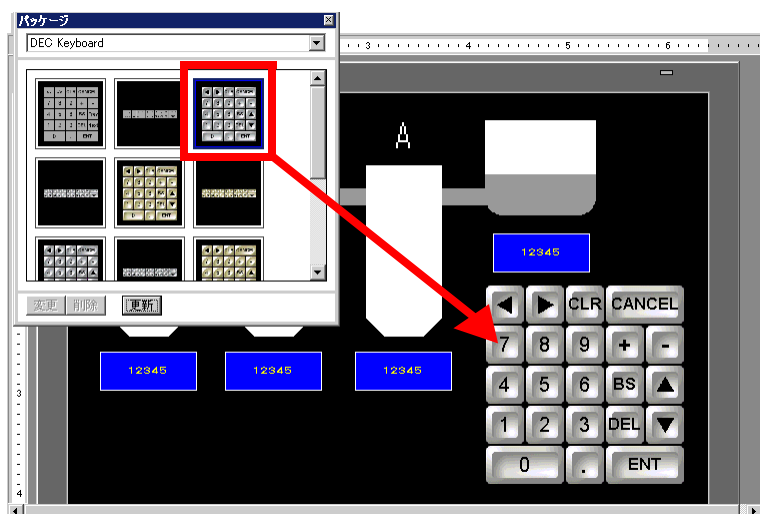
1 キーボードを配置したい作画画面を開きます。



2 [部品 (P)] メニューの [キーボード (B)] を選択するか、 をクリックすると [パッケージ] が表示されます。



3 使用するキーボードを選択して作画画面に配置します。(例：DEC Keyboard)

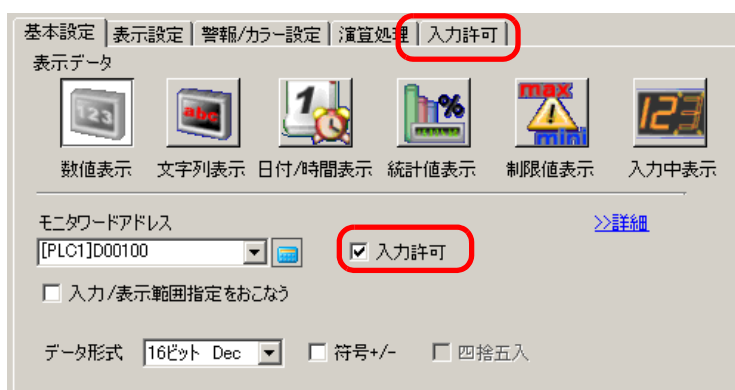


以上でキーボードを常に画面上に表示する設定が完了しました。

4 次に、このキーボードで入力したデータを表示させるためのデータ表示器を設定します。

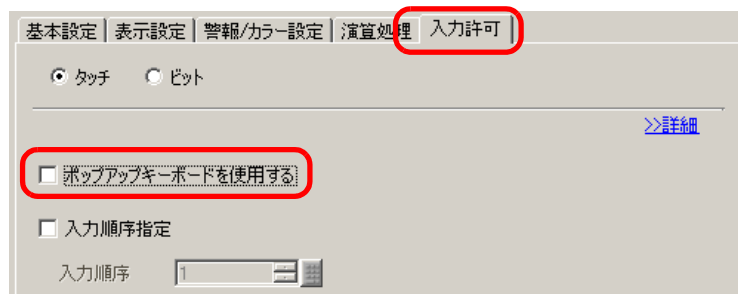
配置しているデータ表示器をダブルクリックして設定ダイアログボックスを開きます。

5 「入力許可」にチェックを入れます。「入力許可」にチェックを入れると、「入力許可」タブが表示されます。



6 「入力許可」タブを開き、「ポップアップキーボードを使用する」のチェックを外します。

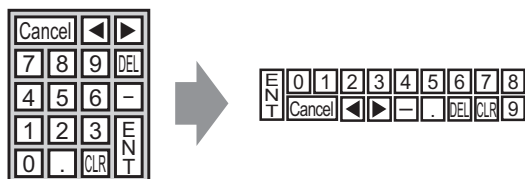
以上で、直接配置したキーボードで入力したデータを表示するデータ表示器ができました。



15.4 キーボードを使いやすく編集したい

15.4.1 詳細

既存のキーボードを並び替え、自由にオリジナルキーボードを作成します。編集したキーボードは画面に直接配置して常に表示したり、ポップアップで表示することができます。



15.4.2 設定手順

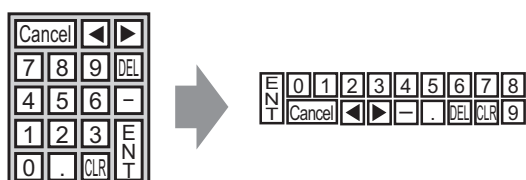
■ 編集したキーボードを画面上に常に表示したい

MEMO

・ 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「15.7.1 キーボードの設定ガイド ■ ユーザーキーボード」(15-41 ページ)

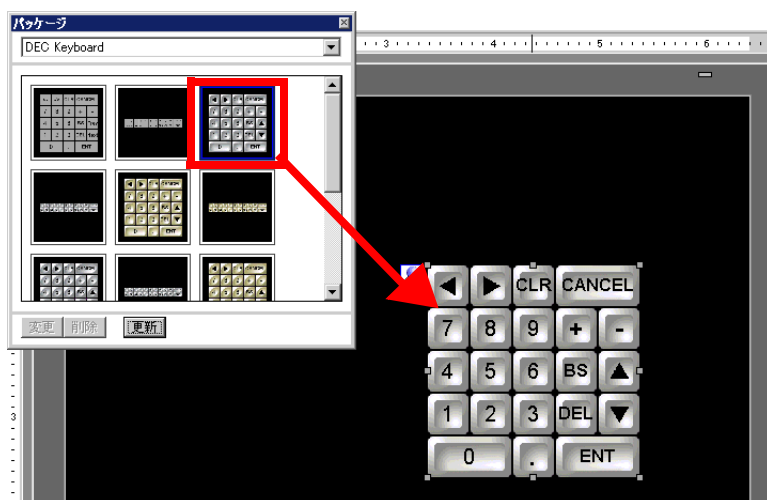
編集したキーボードを画面上に常に表示します。



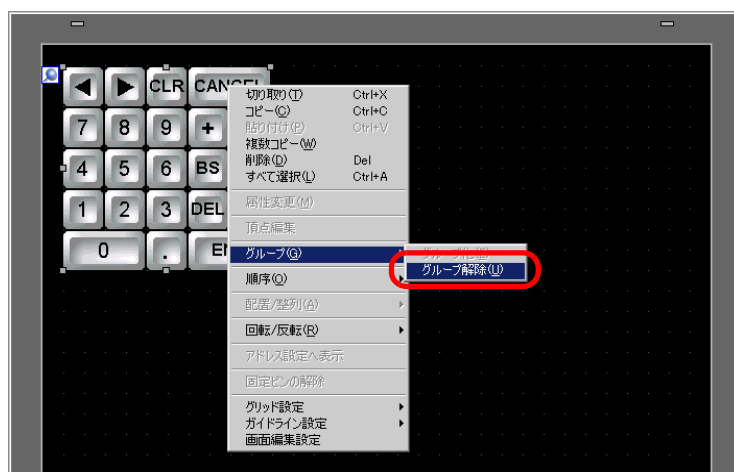
- 1 [部品 (P)] メニューの [キーボード (B)] を選択するか、 をクリックすると次のような [パッケージ] が表示されます。



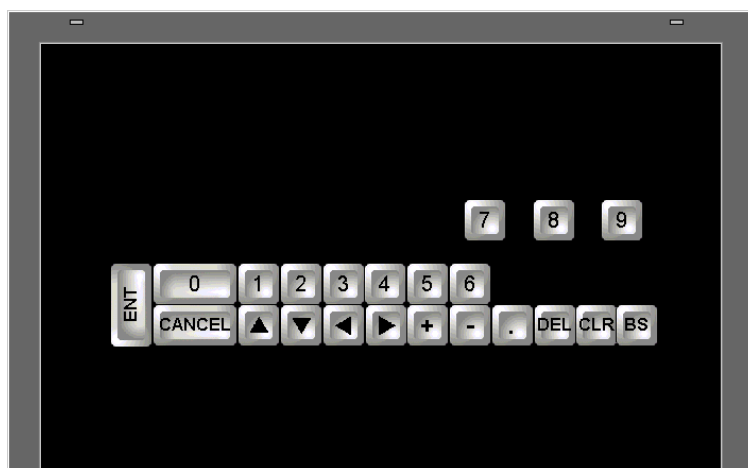
- 2 編集するキーボードを選択し、作画画面に配置します。(例：DEC Keyboard)



- 3 配置したキーボードを選択し、マウスの右をクリックして [グループ (G)] から [グループ解除 (U)] を選択します。[グループ解除] をすることにより、キー 1 つずつ設定できるようになります。



- 4 グループ解除したキーを並び替えます。



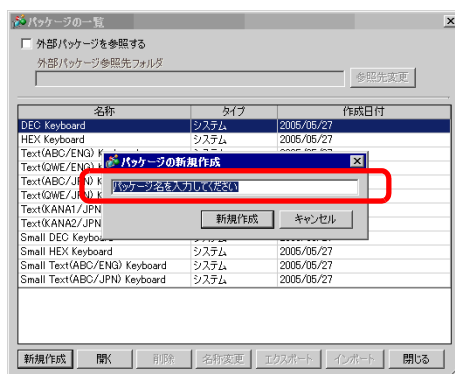
- 5 編集したキーボードをすべて選択し、マウスの右クリックをして [グループ (G)] から [グループ化 (E)] を選択します。キーボードの編集が完了しました。



- 6 続いて「パッケージ」に編集したキーボードを登録します。登録しておく则他の作画画面で同じ編集したキーボードを使用する場合に参照することができます。「表示 (V)」メニューから「パッケージ (P)」を選択するか、 をクリックすると、次のような「パッケージの一覧」ダイアログボックスが表示されます。



- 7 「新規作成」をクリックすると、「パッケージの新規作成」ダイアログボックスが表示されるのでパッケージ名を設定します。(例：Keyboard)



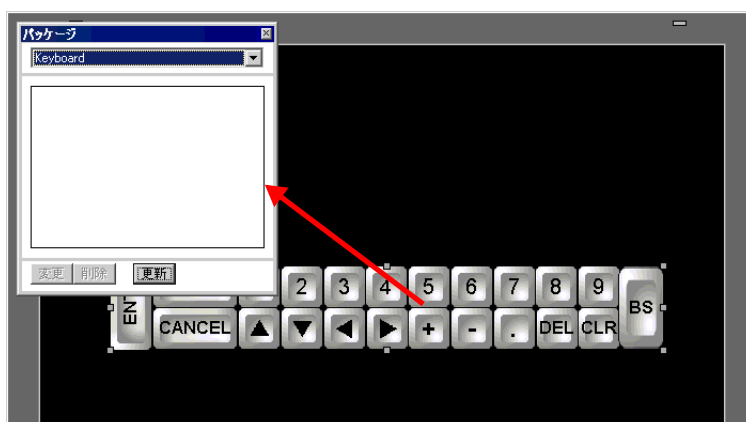
- 8 「パッケージの新規作成」ダイアログボックスの「新規作成」をクリックすると、「パッケージの一覧」ダイアログボックスに戻り、一覧として表示されます。



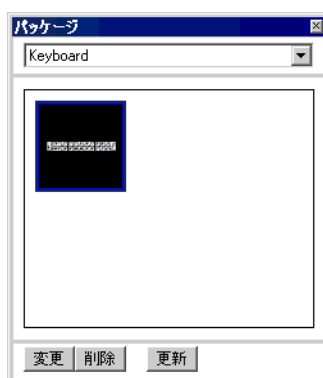
- 9 新規で登録したパッケージ名を選択している状態で、[パッケージの一覧] ダイアログボックスの [開く] をクリックすると、次のようなダイアログボックスが表示されます。



- 10 [パッケージ] ダイアログボックスに編集したキーボードをドラッグ&ドロップします。



- 11 編集したキーボードが [パッケージ] に登録されました。



MEMO

- 1 つの [パッケージ] に登録できる描画、部品、キーボードはすべて合わせて 200 個です。
- 登録したキーボードを削除する場合は、共通設定ウィンドウで [キーボード] を選択し、右クリックで表示される [削除] を選択します。
- 編集したキーボードはパッケージウィンドウの [お気に入り] に登録しておけば、直接ドラッグ&ドロップして画面に配置することができます。

■ 編集したキーボードをポップアップで表示したい

MEMO

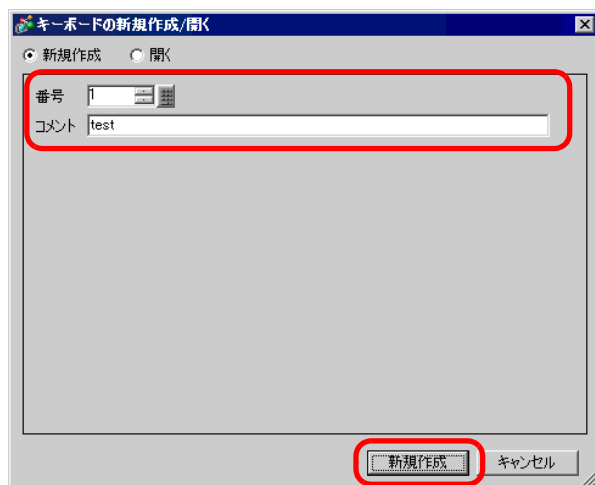
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。
 - ☞「15.7.2 共通設定（キーボード登録）の設定ガイド」（15-42 ページ）
 - ☞「15.7.1 キーボードの設定ガイド ■ ユーザーキーボード」（15-41 ページ）
 - ☞「14.11 データ表示器の設定ガイド」（14-41 ページ）
- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。
 - ☞「8.6.1 部品の編集手順」（8-42 ページ）



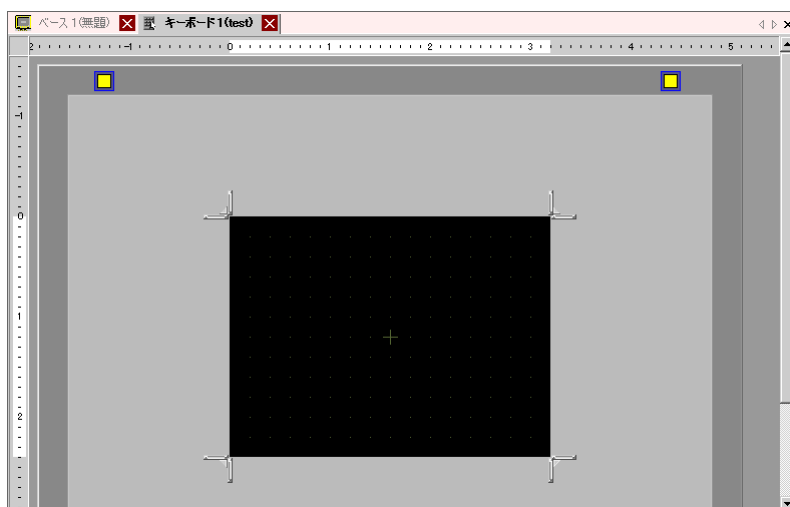
- 1 [共通設定 (R)] メニューから [キーボード登録 (K)] を選択すると、キーボードを編集する [キーボードの新規作成 / 開く] ダイアログボックスが表示されます。



2 [番号]、[コメント]を設定し、[新規作成]をクリックします。(例:[番号]1、[コメント]test)



3 キーボードの[クリアエリア]を作成する画面が表示されます。



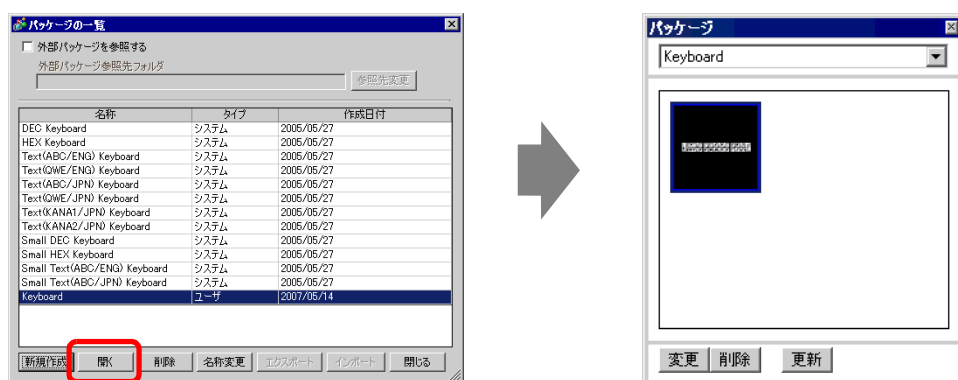
4 [表示(V)]メニューから[パッケージ(P)]を選択するか、をクリックすると[パッケージの一覧]ダイアログボックスが表示されます。



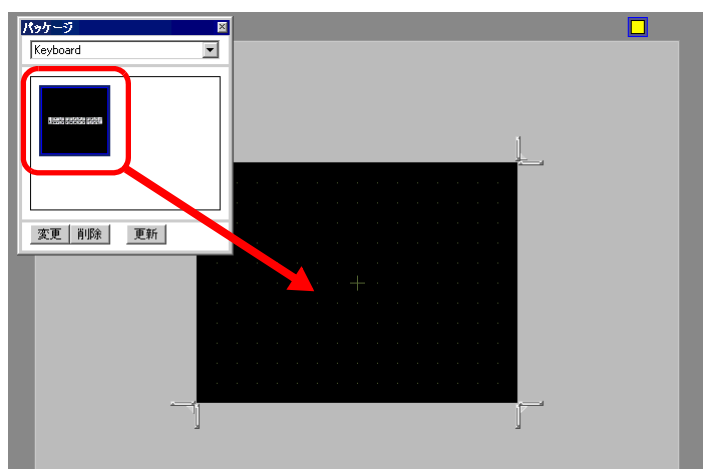
MEMO

- ・ [部品(P)]メニューから[キーボード(B)]を選択すると[パッケージ]ダイアログボックスが表示され、その中から選択することもできます。

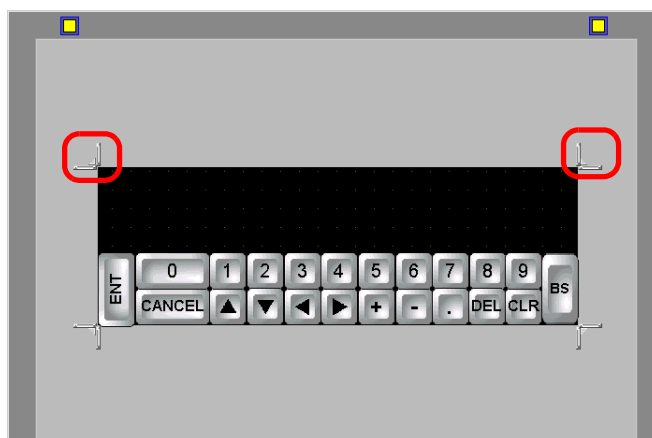
- 5 使用したいキーボードが登録されているパッケージ名（例：Keyboard）を選択し、[開く] をクリックすると [パッケージ] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 使用するキーボードを選択し、[クリアエリア] に配置します。



- 7 キーボードの [クリアエリア] を作成します。[クリアエリア] 設定画面の四隅にある [リサイズバンド] をドラッグして大きさを変更します。どの [リサイズバンド] にマウスを合わせるかにより、クリアエリアの大きさを変更できる方向が変わります。



MEMO

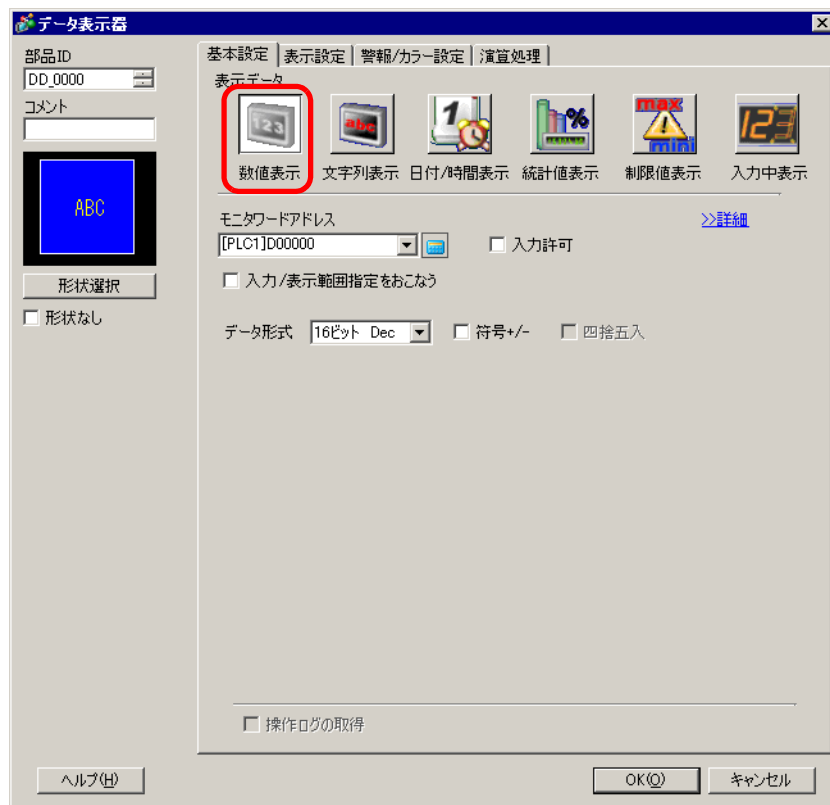
- ・ [クリアエリア] は前に表示していたキーボードが隠れるように上書きするエリアです。
- ☞ 「 ■ クリアエリア 」 (15-45 ページ)

8 [ベース 1] タブをクリックし、ベース画面に移行します。



9 編集したキーボードをデータ表示器で呼び出す設定を行います。[部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

10 配置したデータ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。

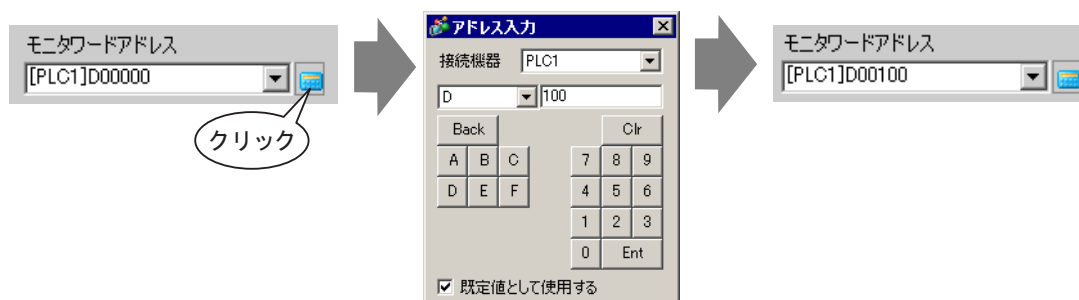


11 [形状選択] でデータ表示器の形状を選択します。

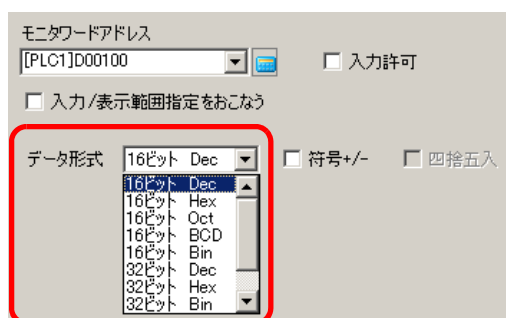
12 [モニタワードアドレス] に、数値入力した値が格納されるアドレス (D100) を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

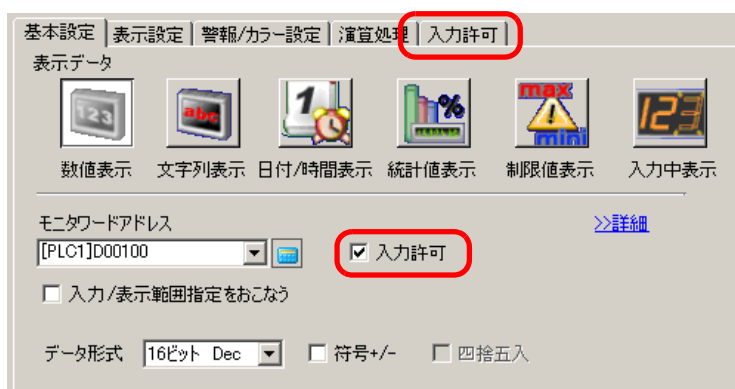
デバイス「D」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。



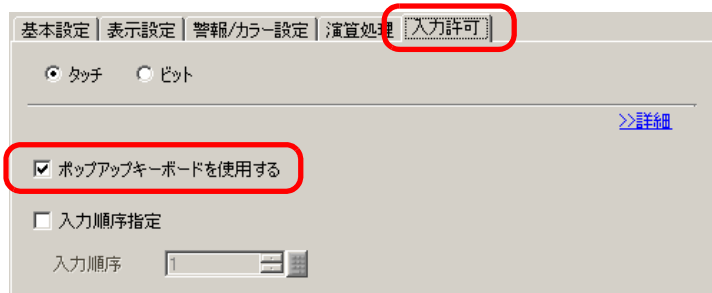
13 [データ形式] で表示するデータの形式 (例 : 16 ビット Dec) を設定します。



14 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され数値データが入力できます。

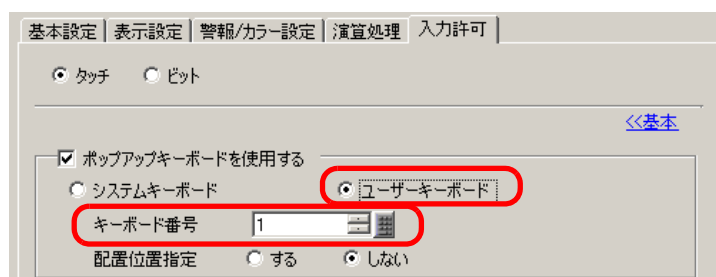


- 15 「入力許可」タブをクリックすると、次のような画面が表示されるので「ポップアップキーボードを使用する」にチェックが入っていることを確認します。



- 16 「詳細」をクリックします。

- 17 「詳細」画面が表示されたら、「ユーザーキーボード」にチェックを入れ、「キーボード番号」でキーボードを設定した「キーボード」画面の番号（例：1）を設定します。



- 18 必要に応じて「警報 / カラー設定」タブ、「表示設定」タブで、データ表示器の色や表示させる文字を設定し、「OK」をクリックします。

15.5 日本語変換入力したい

15.5.1 詳細

日本語入力の際、かな / 漢字変換することができます。



15.5.2 設定手順

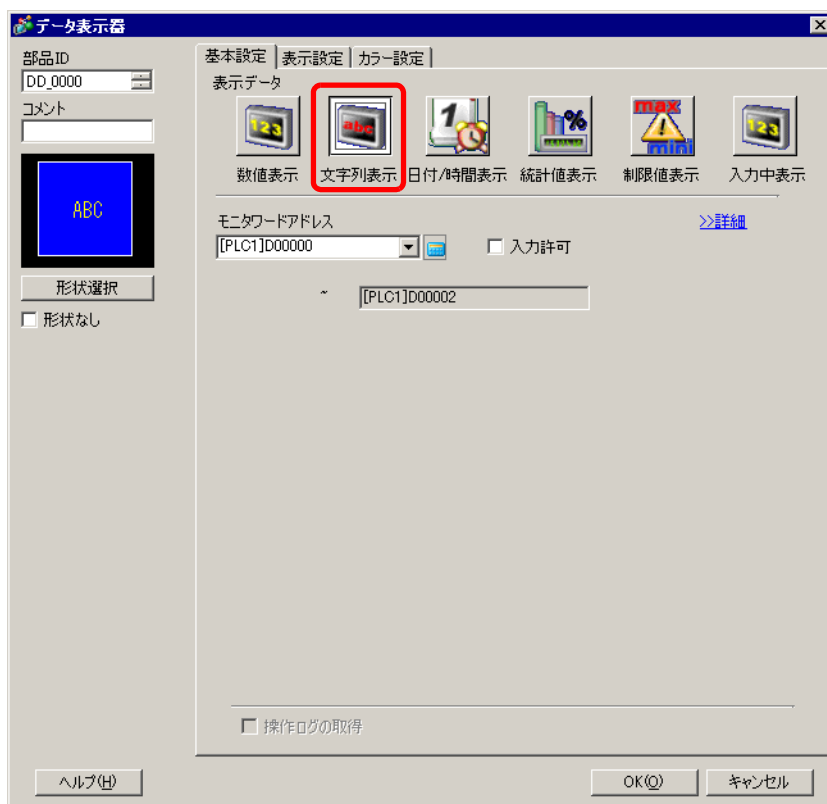
MEMO

- ・ 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。
 ☞「15.7.1 キーボードの設定ガイド」(15-39 ページ)
 ☞「14.11 データ表示器の設定ガイド」(14-41 ページ)
- ・ 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。
 ☞「8.6.1 部品の編集手順」(8-42 ページ)

日本語入力の際、かな / 漢字変換することができます。



- 1 「部品 (P)」メニューの「データ表示器 (D)」から「文字列表示 (S)」を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。
- 2 配置したデータ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



3 [形状選択] でデータ表示器の形状を選択します。

4 [モニタワードアドレス] に、入力した文字列が格納されるアドレス (D100) を設定します。

アイコンをクリックすると、
アドレス入力用キーボード
が表示されます。

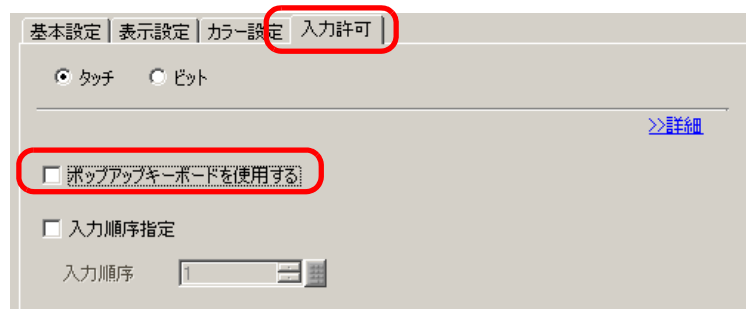
デバイス「D」を選択し、ア
ドレスに「100」を入力して
「Ent」キーを押します。



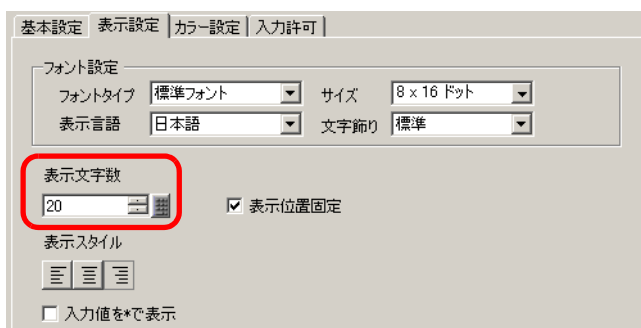
5 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され数値データが入力できます。



6 [入力許可] タブをクリックすると、次のような画面が表示されるので [ポップアップキーボードを使用する] のチェックを外します。



- 7 [表示設定] タブをクリックして、[表示文字数] で半角文字数 1 ~ 100 で設定します。全角の場合は表示文字数 2 に対して 1 文字となります。(例：全角文字数「10」)

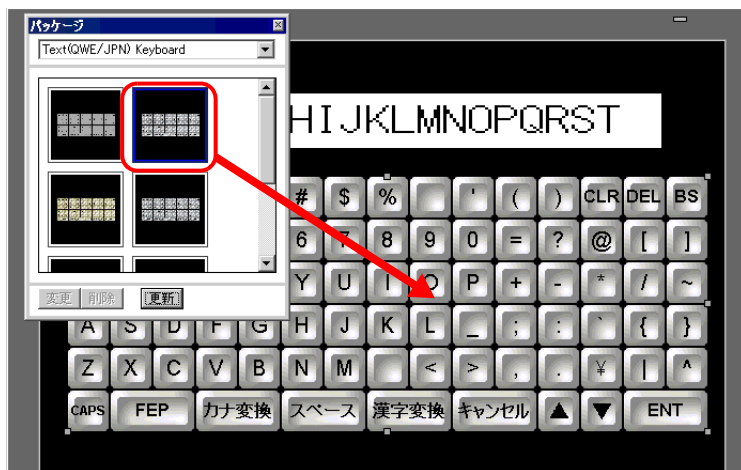


- 8 必要に応じて [カラー設定] タブ、[表示設定] タブで、データ表示器の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

- 9 [部品 (P)] メニューの [キーボード (B)] を選択するか、 をクリックすると次のような [パッケージ] が表示されます。



- 10 日本語 FEP 機能のキーボードを選択し、作画画面に配置します。(例：[Text(QWE/JPN)Keyboard])



15.5.3 操作手順

「日本語の」まで入力されており、続きに「漢字」を入力する場合（ローマ字入力モード）以下の手順で入力します。変換文字の入力方法には「ローマ字入力」、「ひらがな入力」の2通りの方法があります。

- 1 データ表示器をタッチして入力許可すると、カーソルが点滅するので右矢印キーで「の」の次にカーソルを移動させます。



- 2 [FEP] キーをタッチします。



MEMO

- 漢字変換を行う場合は、[FEP] キーをタッチしてから操作を行う必要があります。
[FEP] キーをタッチせずに文字列入力しても漢字変換できません。
- データ表示器が「入力許可」されていない状態で、[FEP] キーをタッチしても漢字変換はできません。
- 日本語 FEP 機能は日本語 FEP ウィンドウ（システムメニューウィンドウ）で変換文字の入力および表示を行います。

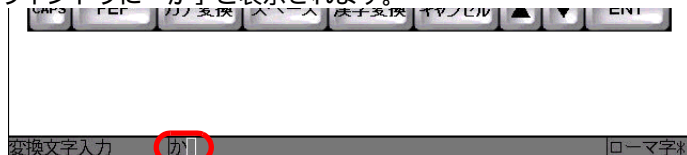
3 [K] キーを入力

→ 日本語 FEP ウィンドウのウィンドウに「K」と表示されます。



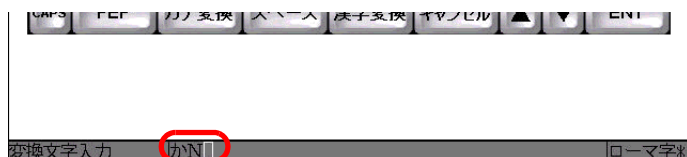
4 [A] キーを入力

→ 日本語 FEP ウィンドウに「か」と表示されます。



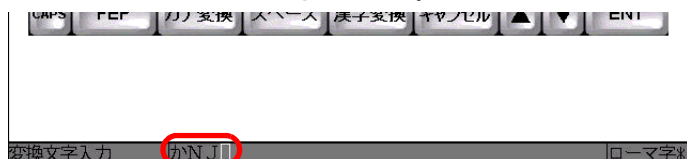
5 [N] キーを入力

→ 日本語 FEP ウィンドウに「か N」と表示されます。



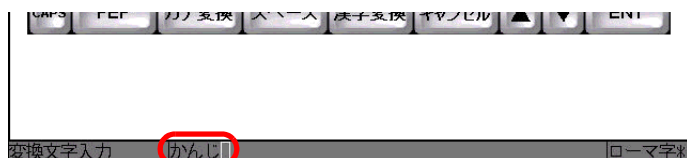
6 [J] キーを入力

→ 日本語 FEP ウィンドウに「か NJ」と表示されます。



7 [I] キーを入力

→ 日本語 FEP ウィンドウに「かんじ」と表示されます。

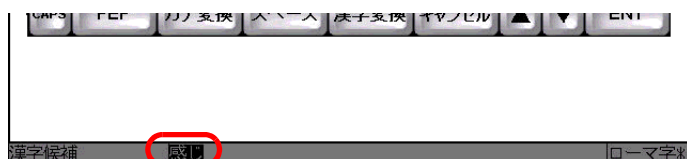


MEMO

・ 変換文字は最大全角 15 文字まで入力できます。

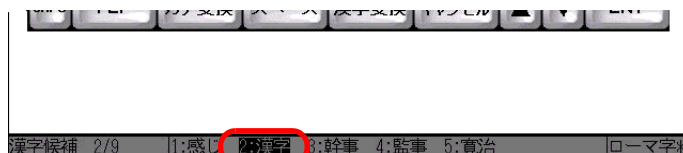
8 [スペース] キーで変換

→ 日本語 FEP ウィンドウに「感じ」と表示されます。



9 [→] キーまたは [スペース]、[漢字変換] キーをタッチ

→ 変換候補が表示されます。[→] キーまたは [スペース]、[漢字変換]、[数字] キーで選択します。

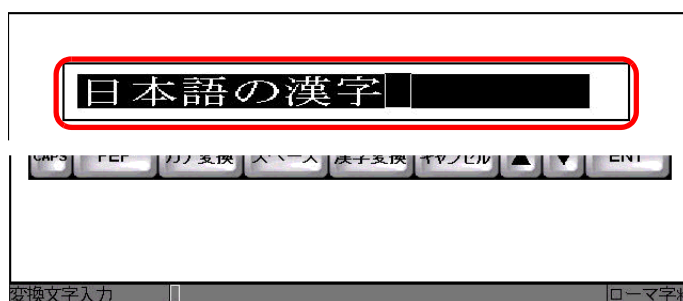


MEMO

- 以前使用した単語を、変換候補に使用頻度順に表示する「学習機能」が設定されています。学習機能は、バックアップ SRAM を使用します。バックアップ SRAM の使用する最大サイズは、約 1 KB (約 100 語) です。これを超えた場合は、使用頻度の低いものから削除して学習します。

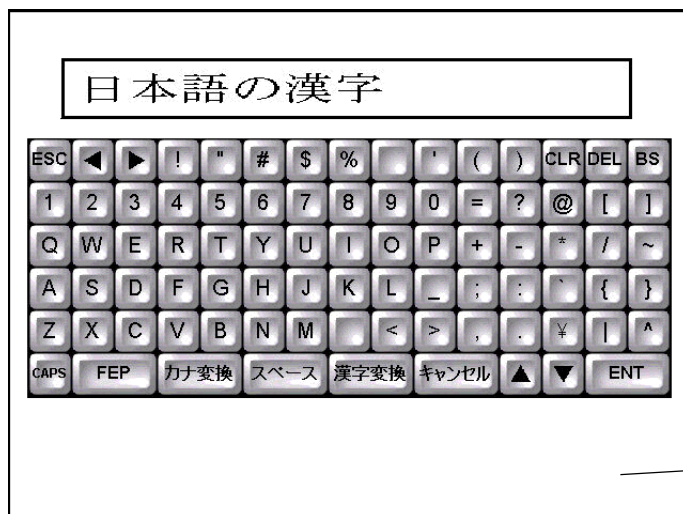
10 [ENT] キーをタッチ

→ データ表示器上に「漢字」と表示されます。



11 [ENT] キーをタッチ

→ 漢字変換モードが解除され、文字列が確定します。指定している [モニタワードアドレス] 以下に文字列データが書き込まれます。



日本語 FEP
ウィンドウが
消去されます。

接続機器には、次のようにデータが格納されます。

アドレス データ（格納イメージ） 漢字イメージ

+0	93FA h	日 本 語 の 漢 字
+1	967B h	
+2	8CEA h	
+3	82CC h	
+4	8ABF h	
+5	8E9A h	

MEMO

- 文字列データの格納順番は通常各接続機器に合わせて設定されていますが、変更することができます。

☞「5.17.6 [システム設定ウィンドウ]の設定ガイド ■ [接続機器設定]の設定ガイド」
(5-174 ページ)

15.6 データ表示器のシステムキーボードをカスタマイズしたい

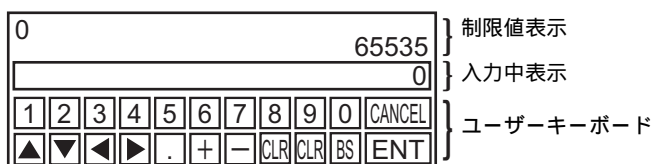
15.6.1 詳細

ユーザーキーボードにデータ表示器の制限値表示と入力中表示を追加します。
システムキーボードと同じ機能を持つオリジナルキーボードを作成できます。

システムキーボード



ユーザーキーボード + 入力中表示 + 制限値表示



MEMO

- ・ 制限値表示と入力中表示の付いたキーボードはパッケージにも登録されています。パッケージから選択して配置することもできます。

15.6.2 設定手順

MEMO

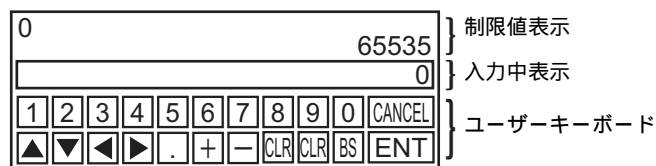
- ・ 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。
 - ☞「15.7.2 共通設定（キーボード登録）の設定ガイド」（15-42 ページ）
 - ☞「15.7.1 キーボードの設定ガイド ■ ユーザーキーボード」（15-41 ページ）
 - ☞「14.11 データ表示器の設定ガイド」（14-41 ページ）
- ・ 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。
 - ☞「8.6.1 部品の編集手順」（8-42 ページ）

ユーザーキーボードにデータ表示器の制限値と入力中の数値を表示できるエリアを追加したオリジナルキーボードを作成し、データ表示器からポップアップで表示します。

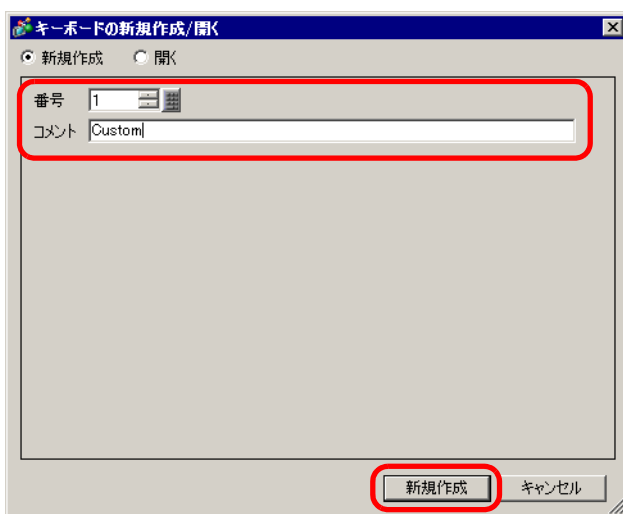
システムキーボード



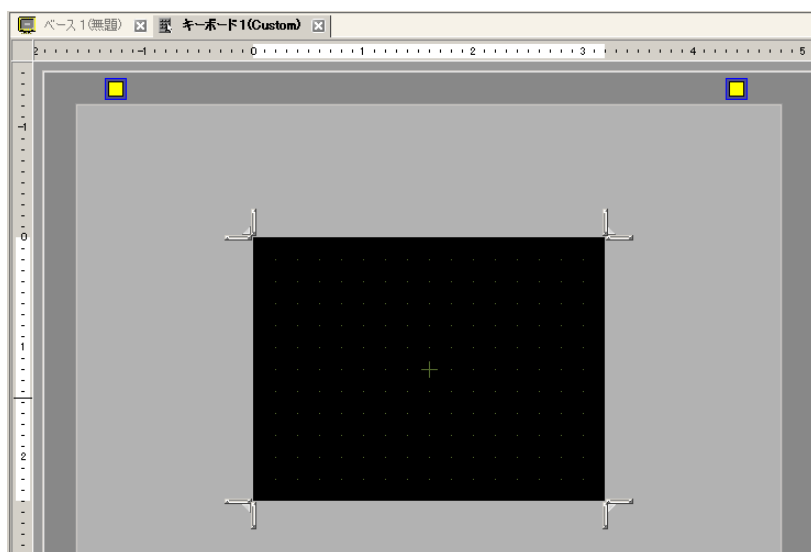
ユーザーキーボード + 入力中表示 + 制限値表示



- 1 [共通設定 (R)] メニューから [キーボード登録 (K)] を選択すると、キーボードを編集する [キーボードの新規作成 / 開く] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [番号]、[コメント] を設定し、[新規作成] をクリックします。
(例 : [番号] 1、[コメント] Custom)



3 キーボードの[クリアエリア]を作成する画面が表示されます。

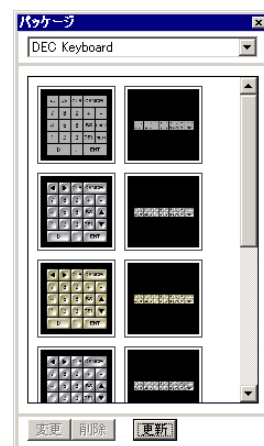
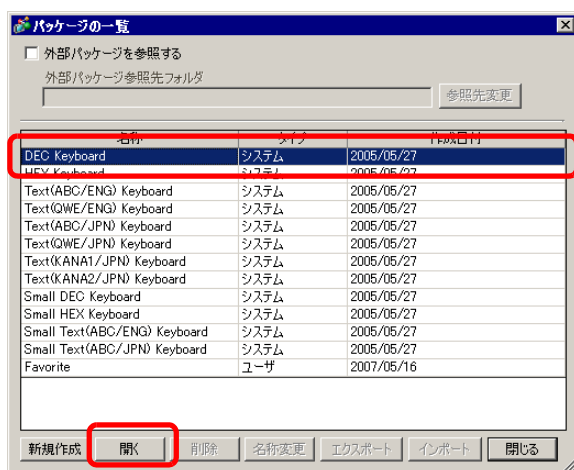


4 [表示 (V)] メニューから [パッケージ (P)] を選択するか、 をクリックすると [パッケージの一覧] ダイアログボックスが表示されます。

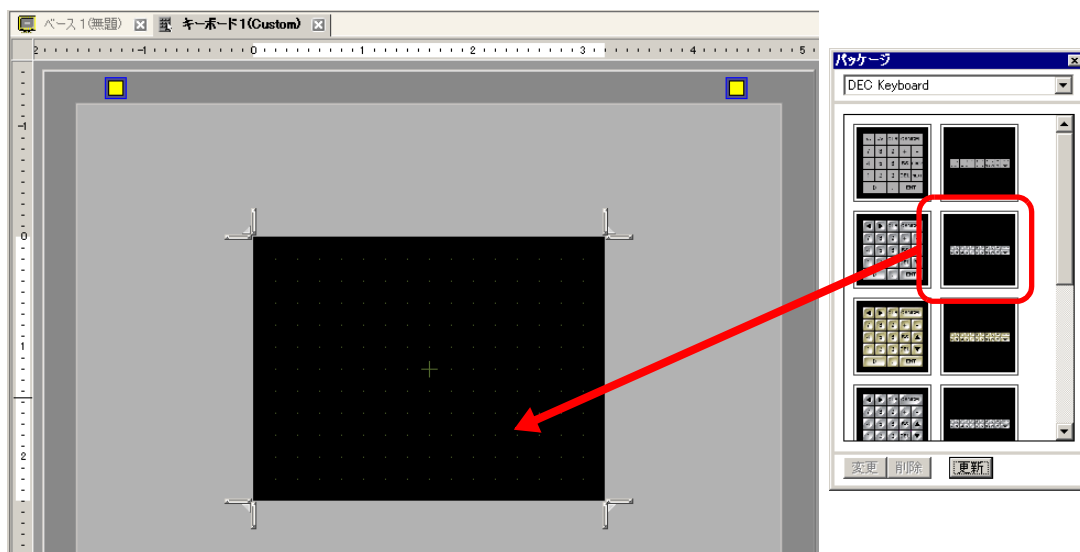
MEMO

- ・ [部品 (P)] メニューから [キーボード (B)] を選択すると [パッケージ] ダイアログボックスが表示され、その中から選択することもできます。

5 使用したいキーボードが登録されているパッケージ名 (例 : DEC Keyboard) を選択し、[開く] をクリックすると [パッケージ] ダイアログボックスが表示されます。



6 使用するキーボードを選択し、[クリアエリア]に配置します。



7 キーボードの[クリアエリア]を作成します。[クリアエリア]設定画面の四隅にある[リサイズバンド]     をドラッグして大きさを変更します。どの[リサイズバンド]にマウスを合わせるかにより、クリアエリアの大きさを変更できる方向が変わります。



MEMO

- ・ [クリアエリア]は前に表示していたキーボードが隠れるように上書きするエリアです。
 「 ■ クリアエリア」(15-45 ページ)

8 キーの配置や大きさなど、必要に応じてキーボードを編集します。

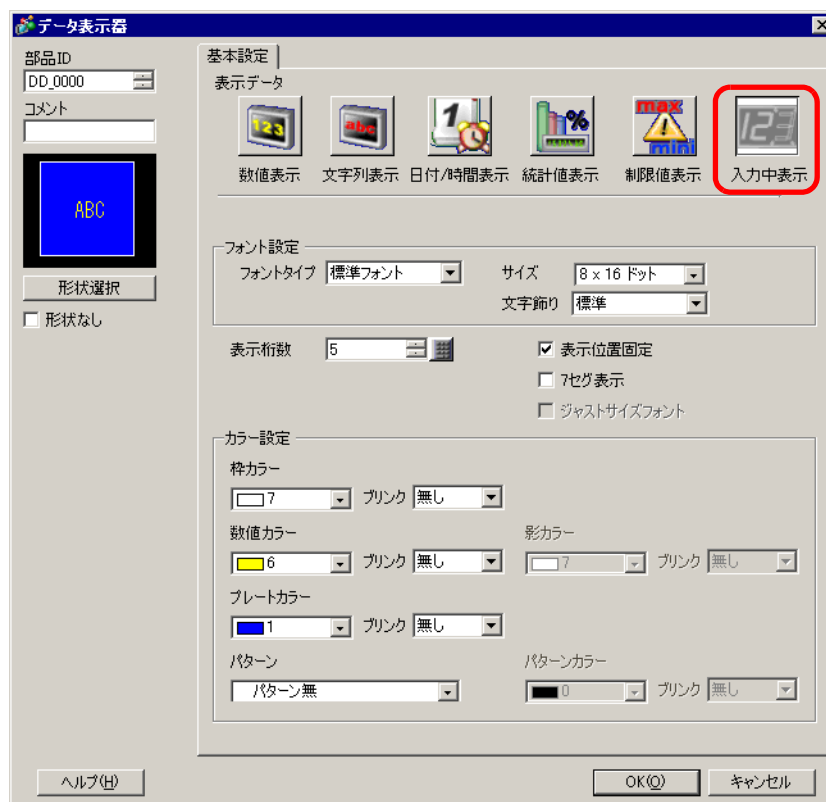
- 9 編集したキーボードに入力中表示をする部品を配置します。[部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [入力中表示 (I)] を選択し、画面に配置します。



MEMO

- 入力中表示部品は 1 画面に 1 個のみ配置できます。2 個目を配置しようとする、エラーメッセージが表示されます。

- 10 配置した入力中表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



- 11 必要に応じて入力中表示部品の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

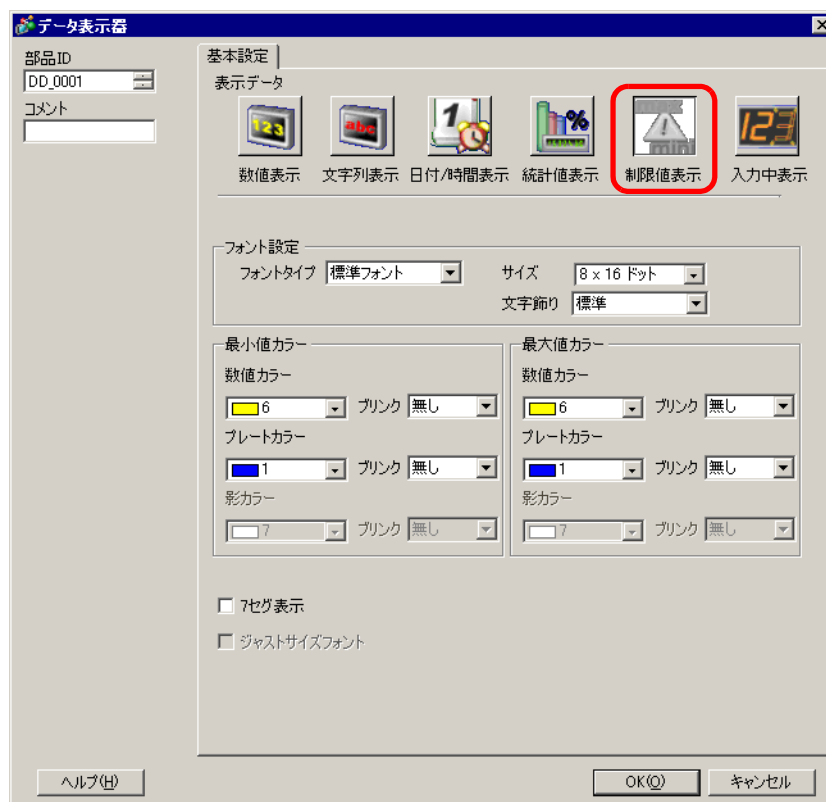
- 12 編集したキーボードに制限値表示をする部品を配置します。[部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [制限値表示 (W)] を選択し、画面に配置します。



MEMO

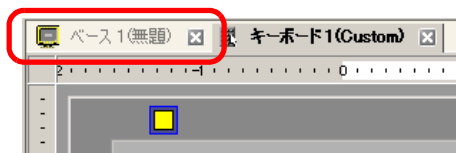
- ・ 制限値表示部品は 1 画面に 1 個のみ配置できます。2 個目を配置しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

- 13 配置した制限値表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



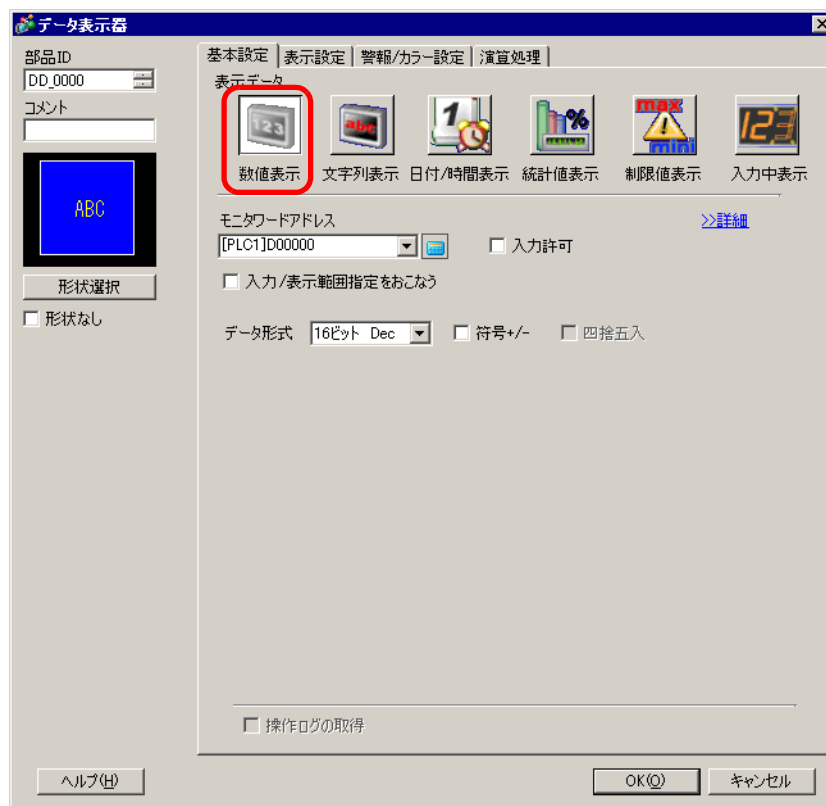
- 14 必要に応じて制限値表示部品の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

15 [ベース1] タブをクリックし、ベース画面に移行します。



16 編集したキーボードをデータ表示器で呼び出す設定を行います。[部品(P)] メニューの [データ表示器(D)] から [数値表示(N)] を選択するか、**123** をクリックし、画面に配置します。

17 配置したデータ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。

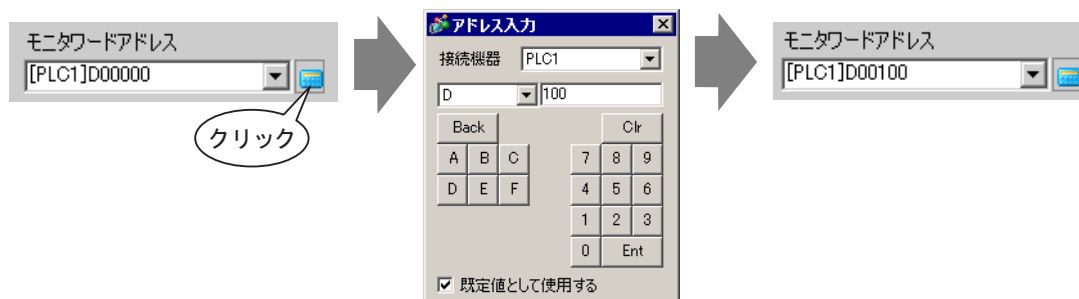


18 [形状選択] でデータ表示器の形状を選択します。

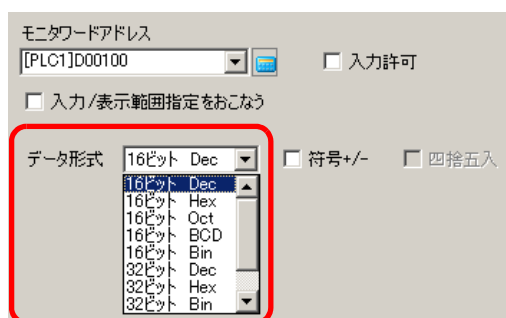
19 [モニタワードアドレス] に、数値入力した値が格納されるアドレス (D100) を設定します。

アイコンをクリックすると、
アドレス入力用キーボード
が表示されます。

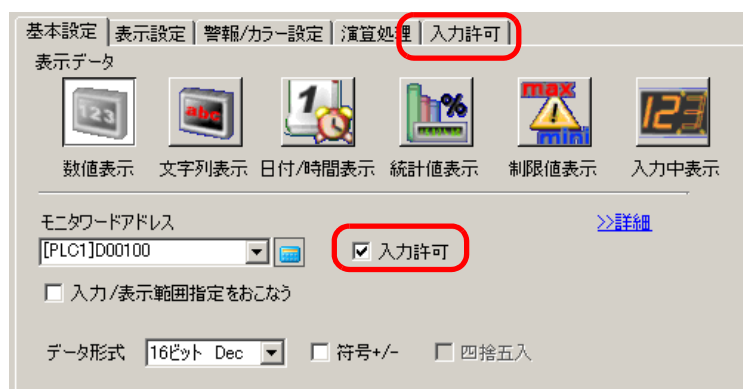
デバイス「D」を選択し、ア
ドレスに「100」を入力して
「Ent」キーを押します。



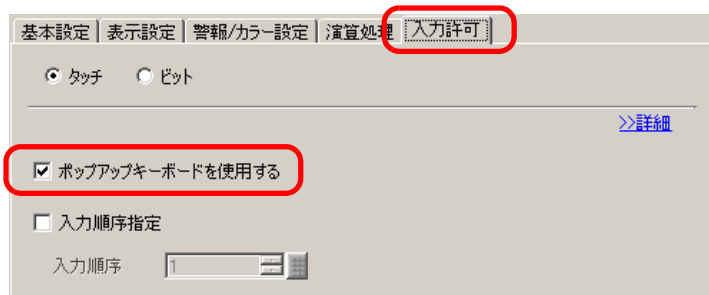
20 [データ形式] で表示するデータの形式 (例 : 16 ビット Dec) を設定します。



21 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され数値データが入力できます。

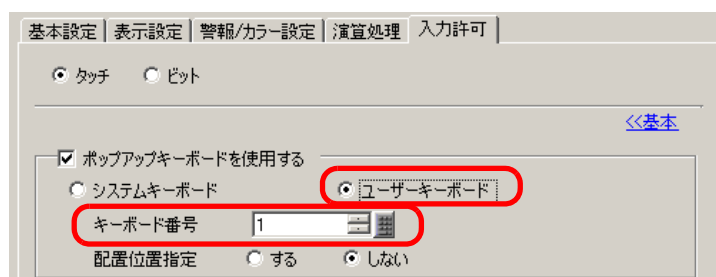


- 22 「入力許可」タブをクリックすると、次のような画面が表示されるので「ポップアップキーボードを使用する」にチェックが入っていることを確認します。



- 23 「詳細」をクリックします。

- 24 「詳細」画面が表示されたら、「ユーザーキーボード」にチェックを入れ、「キーボード番号」でキーボードを設定した「キーボード」画面の番号（例：1）を設定します。



- 25 必要に応じて「警報 / カラー設定」タブ、「表示設定」タブで、データ表示器の色や表示させる文字を設定し、「OK」をクリックします。

15.7 設定ガイド

15.7.1 キーボードの設定ガイド

MEMO

- ・可視アニメーション設定により可視 / 不可視が切り替わると、キーボードの動作に影響がある場合があります。可視アニメーションについての詳細は、以下を参照してください。

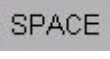
☞「20.3 オブジェクトの表示 / 非表示を必要に応じて切り替えたい」(20-8 ページ)

■ システムキーボード

データ表示器を入力許可すると、数値入力、文字入力それぞれの設定に合ったキーボードが自動的に選択されてポップアップで表示されます。

[データ形式]	Dec	Hex	文字
キーボード仕様			 MEMO ・表示される文字入力キーボードはGPの機種サイズにより異なります。
 ~ 	数値キー (Hex は 0 ~ F) 表示している数値を入力します。		
 ~  その他記号など	——	——	文字キー 表示している文字、記号を入力します。
	デリートキー カーソル位置の数値、文字、記号を消去します。		
	バックスペースキー カーソル位置の一字前の数値、記号を消去します。	——	バックスペースキー カーソル位置の一字前の数値、記号を消去します。
	クリアキー 表示中の設定値をクリアします。[CLR] キーをタッチすると、エリア内の表示は「0」になります。(文字の場合は表示が消えます。) この状態で[ENT] キーをタッチすると、接続機器のデータ格納アドレスにデータ「0」が書き込まれます。(文字の場合はスペースのコードが書き込まれます。)		
	エンターキー 表示中の設定値を確定して、接続機器のデータ格納アドレスに書き込みます。		

次のページに続きます。

[データ形式]	Dec	Hex	文字
 	カーソル移動キー データ表示器上でカーソルを左右に移動します。		
 	エリア移動キー 複数のデータ表示器を配置した場合、設定値を入力せず、前後のデータ表示器を入力待ち状態にします。入力したいデータ表示器までスキップすることができます。 [データ表示器] の [入力許可] の設定が [タッチ] の場合は [入力順序指定] を設定、[ビット] の場合は、[入力許可ビットアドレス] が同じアドレスである必要があります。		
 	プラスマイナスキー データ表示器の [データ形式] が [Dec] で [符号 +/-] を選択している場合のみ使用できます。	—	マイナスキー 記号としての「-」を入力します。
	小数点キー データ表示器の [データ形式] が [Dec] または [BCD] で小数桁を入力した場合に、整数部と小数部の入力切り替えキーになります。	—	小数点キー 記号としての「.」を入力します。
	キャンセルキー 入力を取り消します。データ表示器のポップアップキーボードを使用した場合、入力を確定せずにポップアップキーボードが閉じます。		—
	—	—	エスケープキー 入力を取り消します。データ表示器のポップアップキーボードを使用した場合、入力を確定せずにポップアップキーボードが閉じます。
	—		スペースキー スペースを入力します。

■ ユーザーキーボード

[パッケージ] に登録されているキーボードから選択したキーボードや自由で作成したオリジナルキーボードが、データ表示器を入力許可するとポップアップで表示されます。これらのキーボードは画面に直接配置することもできます。

☞「8.13.2 パッケージの一覧の設定ガイド」(8-91 ページ)

[パッケージ] には以下のキーボードが登録されています。

名称	設定内容
DEC Keyboard	10 進数入力のテンキーが縦型、横型各 7 種類ずつ表示されます。
HEX Keyboard	16 進数入力のテンキーが縦型、横型各 7 種類ずつ表示されます。
Text(ABC/ENG) Keyboard	英字入力のフルキー横型が 7 種類表示されます。(キーは ABC 順に配列されています。)
Text(QWE/ENG) Keyboard	英字入力のフルキー横型が 7 種類表示されます。(キーは通常のキーボードと同じ QWE 順に配列されています。)
Text(ABC/JPN) Keyboard	日本語 FEP 機能用 (ローマ字入力) フルキー横型が 7 種表示されます。(キーは ABC 順に配列されています。)
Text(QWE/JPN) Keyboard	日本語 FEP 機能用 (ローマ字入力) フルキー横型が 7 種表示されます。(キーは通常のキーボードと同じ QWE 順に配列されています。)
Text(KANA1/JPN) Keyboard	日本語 FEP 機能用 (ひらがな入力) フルキー横型が 7 種類表示されます。
Text(KANA2/JPN) Keyboard	日本語 FEP 機能用 (ひらがな入力) フルキー横型が 7 種類表示されます。
Small DEC Keyboard	小さいサイズの 10 進数入力のテンキーが縦型、横型各 2 種類ずつ表示されます。
Small HEX Keyboard	小さいサイズの 16 進数入力のテンキーが縦型、横型各 2 種類ずつ表示されます。
Small Text(ABC/ENG) Keyboard	小さいサイズの英字入力のフルキーが 6 種類表示されます。
Small Text(ABC/JPN) Keyboard	小さいサイズの日本語入力フルキーなどが 6 種類表示されます。

MEMO

- ・文字列入力用のキーボードで、CAPS キーを使用して小文字で入力を行い、画面を切り替え後またもとの画面に戻って文字列入力をした場合、CAPS キーが有効のままの状態 (小文字での入力) になります。
- ・ユーザーキーボードに制限値表示、入力中表示を追加したい場合は、データ表示器を使用してください。

☞「15.6 データ表示器のシステムキーボードをカスタマイズしたい」(15-30 ページ)

15.7.2 共通設定（キーボード登録）の設定ガイド

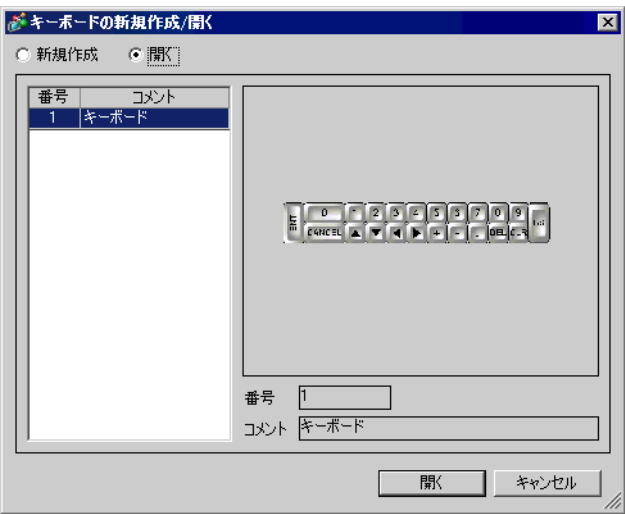
■ 新規作成

キーボードを登録する画面を開きます。



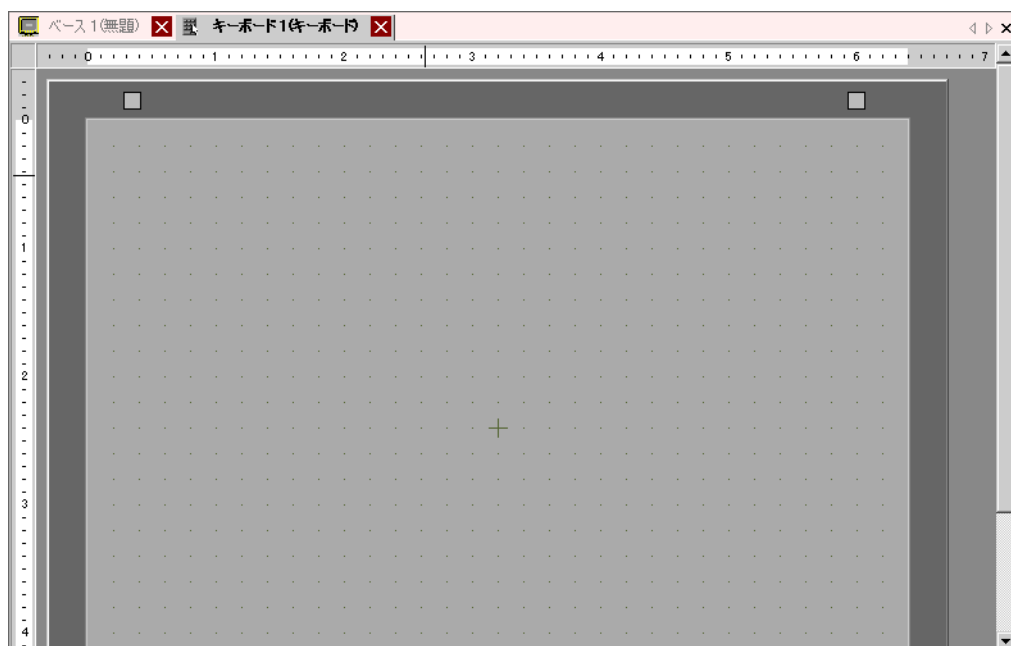
設定項目	設定内容
新規作成	[キーボード登録] 画面を新規で作成します。
開く	既に作成しているキーボード登録画面を開きます。
番号	[キーボード登録] 画面の番号を 1 ～ 8999 で設定します。
コメント	[キーボード登録] 画面のコメントを半角 30 文字以内で設定します。

■ 開く



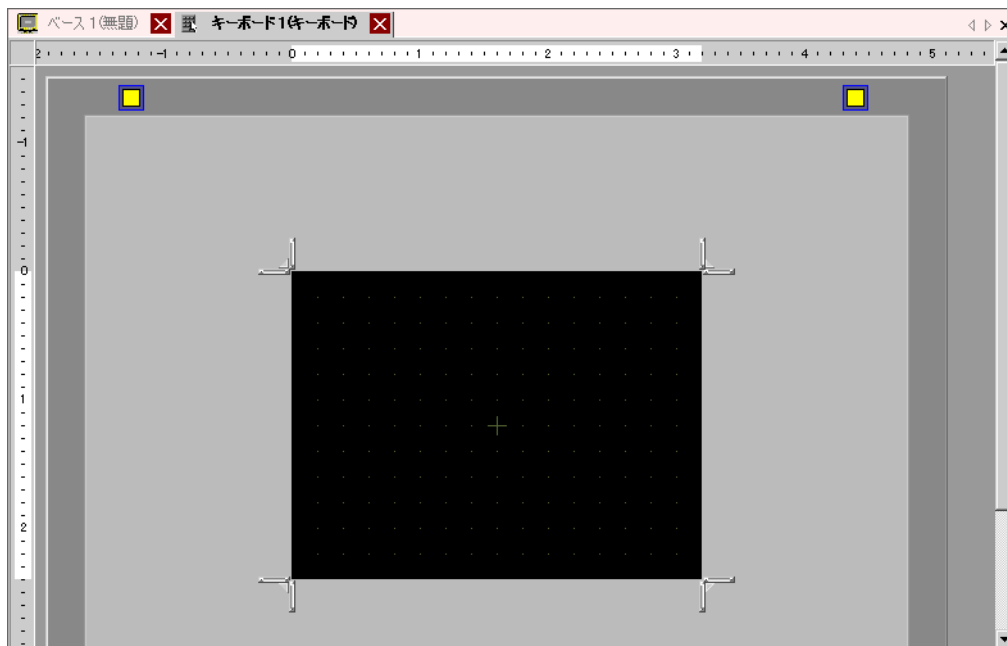
設定項目		設定内容
新規作成		[キーボード登録] 画面を新規で作成します。
開く		既に作成している [キーボード登録] 画面を開きます。
キーボード一覧		プロジェクトファイル内にある [キーボード登録] 画面の一覧を表示します。
	番号	各 [キーボード登録] 画面の番号を表示します。
	コメント	各 [キーボード登録] 画面のコメントを表示します。
キーボードプレビュー		[キーボード一覧] で選択されている [キーボード登録] 画面のキーボードをプレビュー表示します。
	番号	[キーボード一覧] で選択されている [キーボード登録] 画面の番号を表示します。
	コメント	[キーボード一覧] で選択されている [キーボード登録] 画面のコメントを表示します。

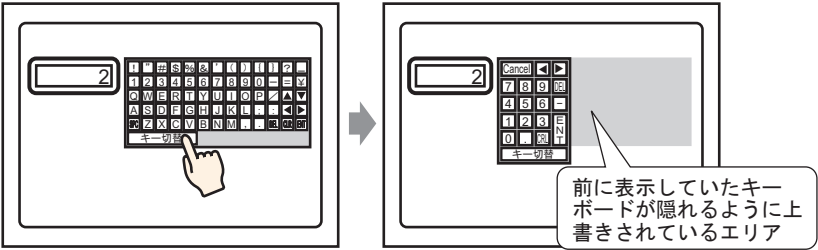
■ キーボード登録



設定項目	設定内容
クリアエリア 編集ボタン ☐	[クリアエリア] を設定します。
編集領域	キーボードの編集を行う領域です。

■ クリアエリア



設定項目	設定内容
クリアエリア 解除ボタン 	[クリアエリア]表示を解除し、[キーボード]画面に戻ります。
クリアエリア	クリアエリアとは、大きいキーボードから小さいキーボードに切り替えた場合、前に表示していたキーボードが隠れるように上書きするエリアです。 
リサイズバンド 	[クリアエリア]の大きさを変更します。どの[リサイズバンド]にマウスを合わせるかにより、クリアエリアの大きさを変更できる方向が変わります。

15.7.3 キー部品の設定ガイド

MEMO

- ・ 可視アニメーション設定により可視 / 不可視が切り替わると、キーボードの動作に影響がある場合があります。可視アニメーションについての詳細は、以下を参照してください。

☞ 「20.3 オブジェクトの表示 / 非表示を必要に応じて切り替えたい」(20-8 ページ)

キーボード用のキーを個々に設定します。



設定項目	設定内容
部品 ID	配置された部品には ID 番号が自動的に割り当てられます。 キー部品の ID : KS_**** (数字 4 桁) 英字部分は固定です。数字部分は 0000 ~ 9999 の範囲で変更することができます。
コメント	部品に対するコメントを最大 20 文字まで設定できます。
部品形状	[形状選択] で選択した部品の形状と状態が表示されます。
形状選択	形状選択用のダイアログボックスが開き、部品の形状を選択します。
形状なし	形状のない透明な部品にするかどうかを設定します。

■ 基本設定 / 基本

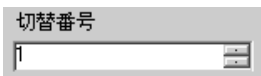


設定項目	設定内容
動作	キー部品の種類を選択します。 • キーボードキー キーボード用入力キーを設定します。 • FEP 機能キー GP 上で日本語の入力を行う際に、かな / 漢字変換をすることができます。この機能を日本語 FEP 機能といいます。この日本語 FEP 機能キーボード用入力キーを設定します。 動作 FEP機能キー FEP機能動作 FEP起動/解除(ローマ字入力) FEP表示位置 上 MEMO • データ表示器 [文字列表示] を選択時で、[表示設定] タブの [フォント設定] で [表示言語] が [日本語] 選択時の場合のみ動作します。

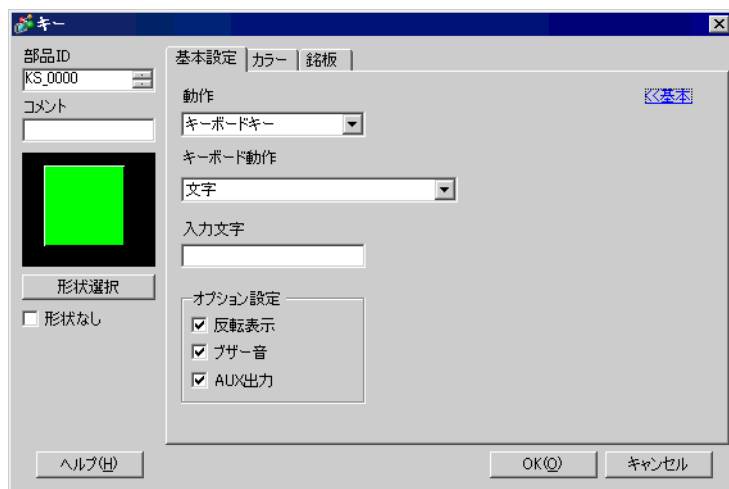
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
動作	キーボードキーの動作を [文字][ENT][BS][CLR][DEL][↑][↓][←][→] [キーボード切替][キャンセル (ポップアップウィンドウ用)] から選択します。 キーボード動作 文字
	• ENT 入力中のデータを確定します。 • BS カーソル位置 1 つ前の字を消去します。 • CLR 入力中のデータをすべてクリアします。 • DEL カーソル位置の字を 1 字消去します。 • ↑、↓ 複数のデータ表示器を配置した場合、設定値を入力せず、前後のデータ表示器を入力待ち状態にします。入力したいデータ表示器までスキップすることができます。 [データ表示器] の [入力許可] の設定が [タッチ] の場合は [入力順序指定] を設定、[ビット] の場合は、[入力許可ビットアドレス] が同時に ON している必要があります。 例) [↑] の動作の場合 K1 1 2 3 K1 1 2 3 K2 6 K2 4 5 6 ▲ MEMO • FEP 機能で変換文字入力中の場合は変換文字の先頭または最後にカーソルを移動し、変換文字候補を表示中の場合は候補のページを前または先に切り替えます。 • →、← 入力中のカーソルを右または左に移動します。 例) [→] の動作の場合 (数値入力) 1 2 3 1 2 3 2 3 5 カーソル位置 5 5 5 ここで「5」 5 5 を入力 5 5 カーソル位置に「5」が挿入され、 「2」と「3」が左に移動します (文字入力) A B C A B C A Q B カーソル位置 Q Q Q ここで「Q」 Q Q を入力 Q Q カーソル位置に「Q」が挿入され、 「B」が右に移動します • キャンセル (ポップアップウィンドウ用) ポップアップキーボードを閉じたり、入力した文字をすべて消去します。
	文字 文字を入力するキーを設定します。
	入力文字 キー部品で入力する文字列を設定します。半角または全角の 1 文字を設定します。 入力文字

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
動作	キーボード切替	キーボード画面を切り替えるキーを設定します。
	切替番号	キーボードを切り替える際のキーボード画面番号を 1 ~ 8999 で設定します。 
	FEP 機能動作	FEP 機能キーの動作を [FEP 起動 / 解除 (ローマ字入力)]、[FEP 起動 / 解除 (ひらがな入力)]、[カナ変換]、[入力モード切替]、[キャンセル (FEP 機能用)] から選択します。
	FEP 起動 / 解除 (ローマ字入力) FEP 起動 / 解除 (ひらがな入力)	• FEP 起動 / 解除 (ローマ字入力) タッチする度にローマ字入力の FEP 起動 / 解除します。 • FEP 起動 / 解除 (ひらがな入力) タッチする度にひらがな入力の FEP 起動 / 解除します。
	FEP 表示位置	日本語 FEP ウィンドウの表示位置を [上]、[下] から選択します。 [上] を選択した場合  [下] を選択した場合  MEMO • [FEP 機能動作] で [FEP 起動 / 解除 (ローマ字入力)]、[FEP 起動 / 解除 (ひらがな入力)] の場合のみ設定できます。
	カナ変換、 入力モード切替、 キャンセル	• カナ変換 FEP 起動後にタッチする度に、全角カタカナ → 半角カタカナ → ひらがなの順で文字タイプの変更をします。 • 入力モード切替 入力モードをローマ字または、ひらがなで入力するのを選択します。 FEP 機能用の入力モード切替キーをタッチする度に [ローマ字] [ひらがな] のトグルスイッチ動作を行います。このキーは [キーボード切替] キーと組み合わせてください。 MEMO • [入力モード切替] キーの上に [キーボード切替] キーを配置する場合は、[入力モード切替] キー → [キーボード切替] キーの順に配置してください。逆の順番で配置した場合はキーボード切り替えが先に行われ、入力切り替えが行われません。 • キャンセル 変換文字の入力と候補表示をキャンセルします。

■ 基本設定 / 詳細



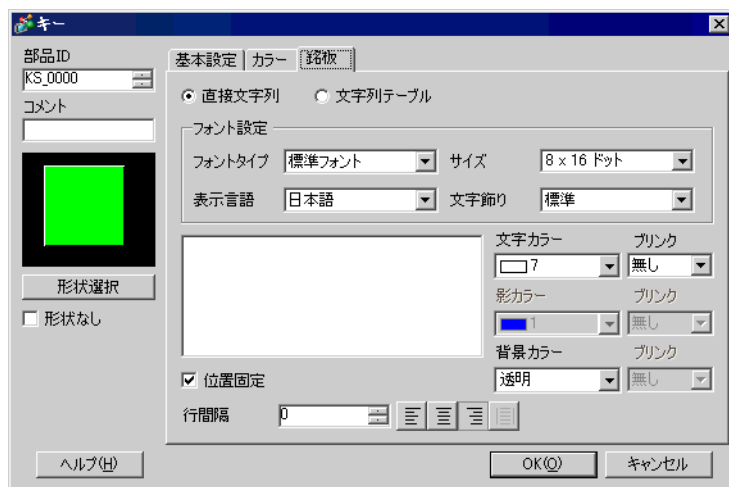
設定項目	設定内容
連続動作機能	キーを押しているあいだ動作を繰り返す機能（リピート機能）を使用するかどうかを設定します。 MEMO ・ [キー動作] が [キーボード入力用キー] で [動作] が、[BS]、[DEL]、[↑]、[↓]、[←]、[→] のいずれかを選択している場合のみ設定できます。
オプション設定	キーを押した際のオプションを設定します。
反転表示	キーを押しているあいだ、タッチエリアの反転表示を行うかどうかを設定します。
ブザー音	キーを押したときに音を鳴らすかどうかを設定します。
AUX 出力	ブザー音をスピーカなどの外部接続機器から鳴らすかどうかを設定します。

■ カラー



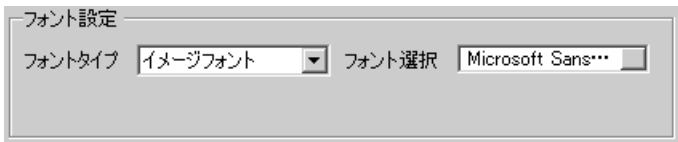
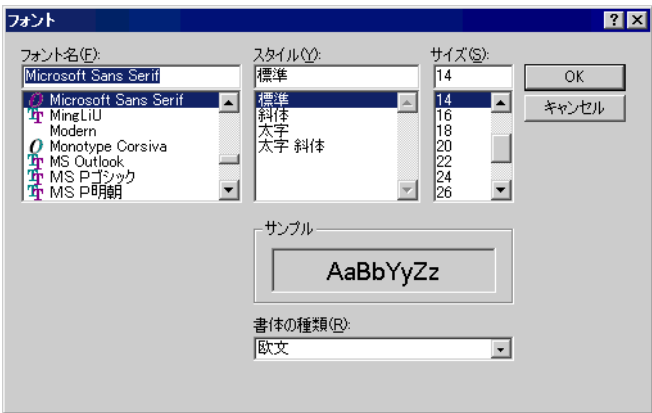
設定項目	設定内容
表示カラー	キー部品の背景の色を設定します。
パターン	キー部品のパターンを設定します。
パターンカラー	キー部品のパターンの色を設定します。 MEMO ・「パターン」を設定した場合のみ、「パターンカラー」で「透明」を選択することができます。
枠カラー	キー部品の枠の色を設定します。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さ指定します。「表示カラー」、「パターンカラー」、「枠カラー」それぞれにブリンクの設定が可能です。 MEMO ・本体機種とシステム設定の「カラー設定」によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「8.5.1 カラーを設定する ■ 対応色数一覧」(8-35 ページ)

■ 銘板



設定項目	設定内容
直接文字列・ 文字列テーブル	銘板の文字タイプを選択します。 - 直接文字列 文字列入力枠に入力し、固定の文字列として直接配置します。 - 文字列テーブル 文字列テーブルに登録された文字列を使用します。 ☞「17.9.3 文字列テーブル設定の設定ガイド」(17-59 ページ)
フォント設定	キーの銘板のフォントを設定します。
フォントタイプ	フォントのタイプを「標準フォント」、「ストロークフォント」、「イメージフォント」から選択します。
標準フォント・ストロークフォント	- 標準フォント 点で記述するビットマップフォントなので速く表示することができます。 - ストロークフォント 文字の骨格を線で記述するベクトルフォントなので拡大してもきれいに表示します。 「ストロークフォント」を選択すると、「文字サイズ自動調整」が表示されます。チェックを入れると、配置した部品に合うように文字サイズが自動で調整されます。
文字サイズ自動調整	「ストロークフォント」を選択すると、「文字サイズ自動調整」が表示されます。チェックを入れると、配置した部品に合うように文字サイズが自動で調整されます。 ☞「17.9.8 文字列テーブルを使用した場合の文字列の配置について 文字サイズ自動調整」(17-73 ページ)

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
フ ォ ン ト 設 定	サイズ	表示するキーのフォントのサイズを選択します。 標準フォント：(8 ~ 64) × (8 ~ 128) 標準フォント (固定サイズ)：[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] ストロークフォント： 6 ~ 127 [文字サイズ自動調整]にチェックを入れた場合は、[最大サイズ]と[最小サイズ]を設定します。このサイズの範囲内で自動調整されます。
	表示言語	文字列の表示言語を、[日本語]、[欧米]、[中国語 (繁体字)]、[中国語 (簡体字)]、[韓国語]、[キリル文字]、[タイ語]から選択します。
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 標準フォント：[標準]、[太字]、[影付き] (固定サイズの[6 × 10]を選択した場合は[標準]、[影付き]から選択) ストロークフォント：[標準]、[太字]、[中抜き]
	イメージフォント	Windows フォントをビットマップデータとして表示します。文字タイプが[直接文字列]の場合に選択できます。 
	フォント選択	[フォント] ダイアログボックスが表示され、フォントやスタイル、サイズを選択します。 
文字列 [入力枠]		[直接文字列]を選択している場合、文字列を入力します。 MEMO ・スイッチを選択して[F2]キーを押すと、銘板の文字列を直接編集できます。
文字カラー		表示する文字列の色を設定します。
影カラー		[フォントタイプ]が[標準フォント]で[文字飾り]が[影付き]を選択している場合、文字飾りの影の色を設定します。
背景カラー		表示する文字列の背景の色を設定します。

次のページに続きます。

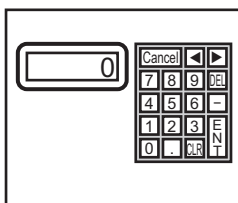
設定項目	設定内容
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さ指定します。[文字カラー]、[影カラー]、[背景カラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 MEMO 本体機種とシステム設定の [カラー設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「8.5.1 カラーを設定する ■ 対応色数一覧」(8-35 ページ)
位置固定	銘板の表示位置をキー部品中央に固定するかどうかを設定します。
行間隔	行間隔を 0 ~ 255 で指定します。[文字列] に複数行入力時のみ設定できます。[フォントタイプ] が [イメージフォント] の場合は表示されません。
整列	入力した文字列を整列します。文字列が 2 行以上の場合に、[左揃え]、[右揃え]、[中央揃え] から選択します。[フォントタイプ] が [イメージフォント] の場合は [両端揃え] も選択できます。

15.8 制限事項

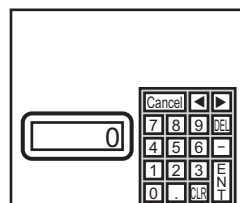
15.8.1 ポップアップキーボードの制限事項

- データ表示器の「タッチ」で入力許可をするものと「ビット」の ON で入力許可をするものが混在して配置されている場合、「ビット」が ON しているデータ表示器があるときは「タッチ」で入力許可することはできません。
- 「配置位置指定」で配置したポップアップキーボードが GP の表示画面エリアから出る場合、ポップアップキーボードは、配置したデータ部品の右下の画面隅に表示されます。
- 「配置位置指定」が「しない」の場合のポップアップキーボード表示について

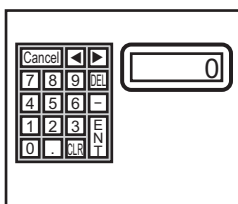
通常ポップアップキーボードはデータ表示器の右側にデータ表示器の右上端を起点にして表示されます。



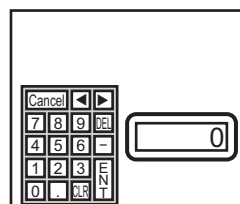
画面の下方向にキーボードを表示するスペースがない場合は、キーボードの縦位置を調節して表示します。



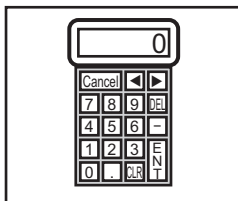
画面の右方向にキーボードを表示するスペースがない場合は、データ表示器の左側にデータ表示器の左上端を起点にして表示されます。



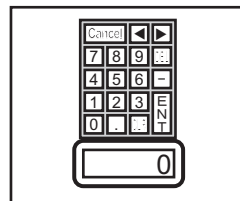
画面の右方向と、下方向にキーボードを表示するスペースがない場合はデータ表示器の左側に、キーボードの縦位置を調節して表示します。



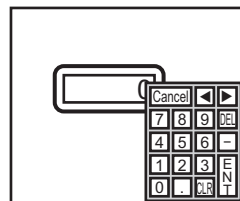
画面の左右と上方向にキーボードを表示するスペースがない場合はデータ表示器の下側に表示されます。



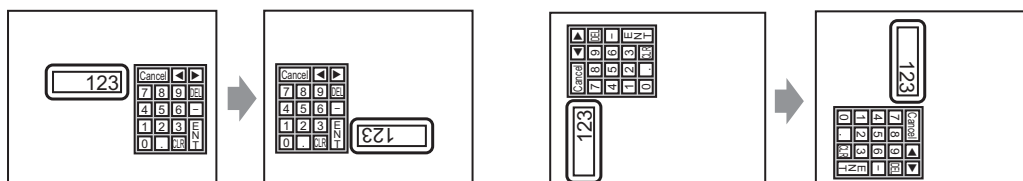
画面の左右と、下方向にキーボードを表示するスペースがない場合はデータ表示器の上側に表示されます。



上下左右の方向すべてにキーボードを表示させるスペースがない場合は、画面の右下に表示されます。この場合、設定値表示器とポップアップキーボードが重なってしまい、設定入力中の値を確認できない場合があります。



- データ表示器を回転しても、回転角度によりポップアップキーボードの表示が同様に回転しない場合があります。



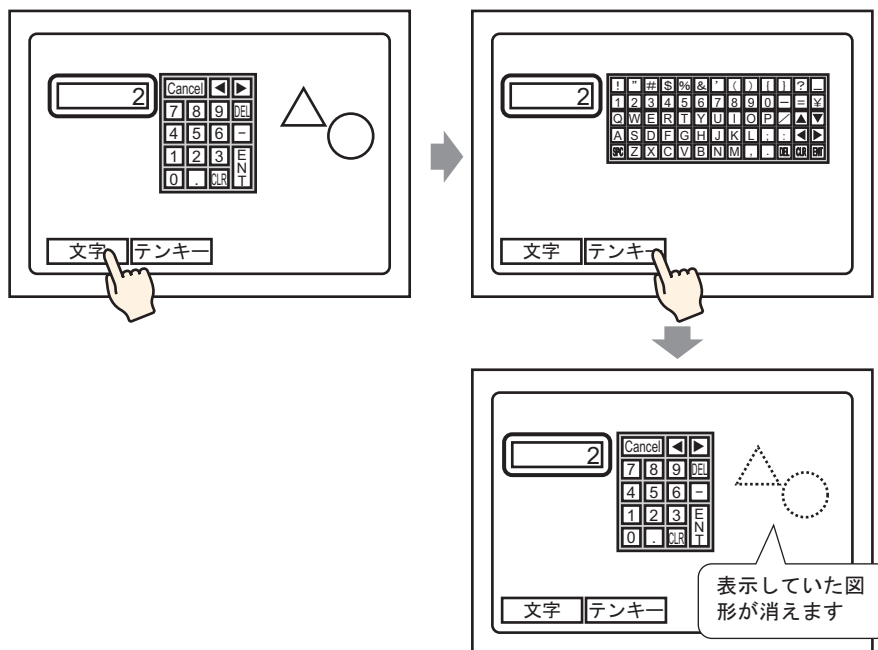
- ポップアップキーボードは[エラー詳細ウィンドウ]またはローカルウィンドウを使用して表示されます。既に表示最大数分のウィンドウが表示されている場合は表示できません。他のウィンドウを閉じてからポップアップキーボードを表示させてください。
☞ 「12.8 ウィンドウの制限事項 ■ 1 画面に同時に表示できるウィンドウ枚数について」(12-30 ページ)
- ウィンドウ上に配置したデータ表示器にポップアップキーボードからの入力はありません。ウィンドウ上のデータ表示器にデータを入力する場合はキーボードを直接配置してください。
- ポップアップキーボードの上に他のウィンドウが重なっている場合、タッチによって一番手前にキーボードの表示を入れ替えることができます。
- データ入力中に、インターロックがかかった場合、ポップアップキーボードは表示されたままで、入力できます。ただし、次からはインターロックがかかった状態になり、データ表示器をタッチしてもポップアップキーボードは表示しません。また、入力をせずポップアップキーボードを消去するには、Cancel を押してください。データ表示器をタッチしてポップアップキーボードを消去することはできません。
- 数値、文字列入力を行う際の入力中表示と警報値表示の表示色、表示位置、フォント、文字サイズなどは設定できません。

15.8.2 キーボード編集の制限事項

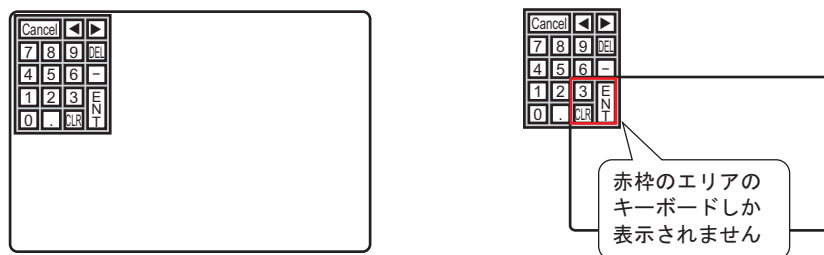
- キーボード登録画面に配置できる部品は[キー部品]、[描画](ドット、直線/連続直線、円/楕円、四角形、円弧/扇形、多角形、目盛り、表、文字列)、またキーボード登録画面上に[画面呼出]で呼び出しができるのはベース画面、イメージ、マークのみです。

15.8.3 クリアエリアの制限事項

- キーボード切り替えで大きい方のキーボードに表示を切り替えることによって図形や文字が隠れた場合、小さい方のキーボードに表示を切り替えても、図形や文字は消えたままで再表示されません。ベース画面でキーボードが表示されるエリアには、図形や文字、部品などを配置しないでください。



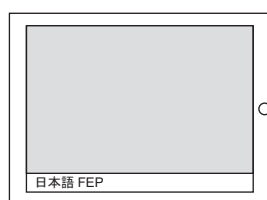
- 「システム設定」により GP の機種が変更された場合、クリアエリアおよびベース画面上に配置されている部品は変更前と同じサイズ、位置のままで表示されます。



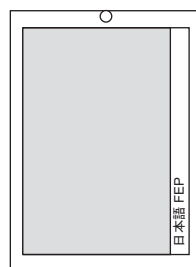
15.8.4 日本語 FEP 機能の制限事項

■ 動作、表示について

- 漢字変換を行う場合は、[FEP] キーをタッチしてから操作を行う必要があります。[FEP] キーをタッチせずに文字列入力しても漢字変換できません。
- データ表示器が「入力許可」されていない状態で、[FEP キー] をタッチしても漢字変換はできません。
- 日本語 FEP は、システムメニューウィンドウで変換文字の入力および表示を行います。
- 日本語 FEP 機能は、データ表示器の「表示設定」タブで「フォント設定」の「表示言語」が「日本語」を設定している場合のみ動作します。
- 日本語 FEP ウィンドウは縦型設定した GP でも同じ位置に表示します。



横型設定



縦型設定

- FEP 機能を動作中にデータ表示器の入力許可を解除すると、FEP 機能も終了します。また画面切り替えを行った場合も FEP 機能を終了します。
- システムメニューウィンドウは表示を画面の最上部表示または最下部表示から選択することができます。
- 以前使用した単語を、変換候補に使用頻度順に表示する「学習機能」が設定されています。学習機能は、バックアップ SRAM を使用します。バックアップ SRAM の使用する最大サイズは、約 1K バイト (約 100 語) です。これを超えた場合は、使用頻度の低いものから削除して学習します。

■ ローマ字入力について

ローマ字入力を行うときには以下の表に従って入力してください。

a	i	u	e	o					
あ	い	う	え	お					
ka	ki	ku	ke	ko	ga	gi	gu	ge	go
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご
sa	si shi	su	se	so	za	zi ji	zu	ze	zo
さ	し	す	せ	そ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
ta	ti chi	tu tsu	te	to	da	di	du	de	do
た	ち	つ	て	と	だ	ぢ	づ	で	ど
na	ni	nu	ne	no					
な	に	ぬ	ね	の					
ha	hi	hu fu	he	ho	ba	bi	bu	be	bo
は	ひ	ふ	へ	ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ
pa	pi	pu	pe	po					
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ					
ma	mi	mu	me	mo					
ま	み	む	め	も					
ya		yu		yo					
や		ゆ		よ					
ra	ri	ru	re	ro					
ら	り	る	れ	ろ					
wa				wo	nn				
わ				を	ん				
kya		kyu		kyo	gya		gyu		gyo
きゃ		きゅ		きょ	ぎゃ		ぎゅ		ぎょ
sya sha		syu shu		syo sho	zya ja		zyu ju		zyo jo
しゃ		しゅ		しょ	じゃ		じゅ		じょ
tya cha		tyu chu		tyo cho	dya		dyu		dyo
ちゃ		ちゅ		ちょ	ぢゃ		ぢゅ		ぢょ
nya		nyu		nyo					
にゃ		にゅ		にょ					
hya		hyu		hyo	bya		byu		byo
ひゃ		ひゅ		ひょ	びゃ		びゅ		びょ
					pya		pyu		pyo
					ぴゃ		ぴゅ		ぴょ
mya		myu		myo					
みゃ		みゅ		みょ					
rya		ryu		ryo					
りゃ		りゅ		りょ					
	syi		sye she						
	しい		しえ						

	tyi		tye che						
	ちい		ちえ						
tsa	tsi		tse	tso					
つあ	つい		つえ	つお					
tha	thi	thu	the	tho					
てや	てい	てゆ	てえ	てよ					
fa	fi		fe	fo					
ふあ	ふい		ふえ	ふお					
	zyi		zye je						
	じい		じえ						
	dhi	dhu	dhe						
	でい	でゆ	でえ						
xa	xi	xu	xe	xo					
あ	い	う	え	お					
xka			xke						
カ			ケ						
xya		xyu		xyo					
や		ゆ		よ					
xwa									
わ									
			ye						
			いえ						
	whi wi		whe we	who					
	うい		うえ	うお					
kwa	kwi		kwe	kwo					
qa	qi		qe	qo					
くあ	くい		くえ	くお					
	tsi								
	つい								
gwa	gwi		gwe	gwo					
ぐあ	ぐい		ぐえ	ぐお					
va	vi	vu	ve	vo					
ヴあ	ヴい	ヴ	ヴえ	ヴお					
		fyu							
		ふゆ							
vya		vyu		vyo					
ヴァ		ヴゆ		ヴよ					

■ ひらがな入力について

ひらがな入力を行う場合の「濁点 (°)」、「半濁点 (°)」の入力は、以下の表示の文字に対してのみ設定できます。これ以外の文字に対して入力すると「濁点」「半濁点」が1文字として入力されます。

濁点 (°) 入力有効文字

か	さ	た	は
き	し	ち	ひ
く	す	つ	ふ
け	せ	て	へ
こ	そ	と	ほ

例)「が」の入力

1.

か

 キーの入力 → か
2.

°

 キーの入力 → が

半濁点 (°) 入力有効文字

は
ひ
ふ
へ
ほ

例)「ぱ」の入力

1.

は

 キーの入力 → は
2.

°

 キーの入力 → ぱ

